

六 南京・漢口両事件解決交渉

460

昭和3年1月12日

在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉再開に関するマクマレー米国公

使との会談について

北 京 1月12日後発
本 省 1月13日前着

*第三二号

十二日米国公使來訪ノ際同公使ハ新聞ノ報道ニ依レハ日本
ノ南京領事ハ復帰シタル由ナルカ事實ナリヤト尋ネタルニ
付事實ナリト答ヘシニ同公使ハ南京事件解決ニ先立チ復帰
スルコトハ右解決ニ影響ヲ及ホス虞ナキヤト尋ネシニ本使
ハ我方ニ於テハ居留民中城内ニ帰リタキ希望ヲ有スルモノ
モアリ旁々領事自身カ「ハルク」ヲ引揚ケ領事館ニ帰ル方
得策ト認メ政府ニ於テモ右様決定シタル次第ニテ南京事件
ノ解決トハ自ラ別個ノ問題ナリト思考スト述ヘタル処同公
使ハ自分ハ率直ニ言ヘハ右解決ニ影響アルヤニ感セラルト
述ヘタルニ付本使ハ其点ニ付テハ見解ヲ異ニスルモ速ニ南

ハ本件ノ円満解決モ差シテ難事ニ非サルヲ信スルモノナリ
支那側ニ於テハ床次氏ノ意見及阿部某ナルモノノ言動等ニ
依リ政府カ即時撤兵ヲ決スルニ至ルカ如キコトヲ考ヘ居ル
力如キモ右ノ如キハ全然見当違ヒニシテ殊ニ本大臣ノ密使
ト称スル阿部某ノ如キハ本大臣ノ何等関係無キ所ナルニ付
斯クノ如キ者ノ言動ニ迷ハサレ頼ミ難キヲ頼ンテ濟南事件
ノ交渉ヲ遷延シ又本件ノ解決トハ関連ゼンメ難キノミナラ

ス大体ニ於テ話合纏リ居ル七種差等税率問題ノ取纏サヘモ
故意ニ遷延セシムルニ至リテハ日支ノ関係ヲ取り返ヘシノ
付カサル状態ニ導カムトスルモノナリ就テハ貴官ハ王正廷
其ノ他然ルヘキ方面ニ右ノ点ヲ指摘シテ誤解無カラシムル
様然ルヘク御措置アリ度シ

京事件ノ解決ヲ計ルコトハ我方ニ於テモ考慮シ居ル処幸ヒ
蔣介石モ再ヒ總司令ニ復任シタル次第モアリ南京政府ト交
渉ヲ再開スルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ同公使ハ實ハ
北方支那ハ目下ノ処大体ニ於テ秩序アリト看做シ得ラル
モ揚子江流域ニ至リテハ内訌熄ム時ナク自分モ為ス処ヲ知
ラサル状況ナリ交渉ヲ開クトセハ矢張伍朝枢ト交渉スルコ
トトナルヘシト述ヘタルニ付本使ハ伍朝枢ハ現ニ辭表ヲ提
出シ黃郛或ハ王正廷之ニ代ルヘシトノ話アリト述ヘタル処
同公使ハ自分ノ最近入手シタル報道ニ依レハ伍朝枢ハ一旦
辭表ヲ提出シタルモ後任ニ擬セラレタル右兩人カ互ニ競争
シテ暗鬪ヲ為シタル為伍朝枢ハ其儘居残ルコトトナリタル
モノノ如シト述ヘタルカ本件ニ付テハ本使ハ尚考慮ノ上更
ニ協議ヲ継続シタキ心底ニテ此辺ニテ話ヲ打切リタリ

461 昭和3年1月24日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉再開に関するランプソン英國公

使の質問について

北 京 1月24日後発

本 省 1月25日前着

上海 3月6日後発
本 省 3月7日後着
大臣宛第一一二号
黄外交部長より提出の解決公文案

*第九七号
(四六〇文書)

往電第三二号ニ関シ

同右

三月七日付在上海矢田總領事より田中外務

大臣宛第一一三号

二十四日英國公使來訪ノ際英國ハ最近「ヒュウレット」ヲ在南京總領事ニ任命スル事トナレリト述ヘタル後南京日本

領事ハ既ニ城内ニ帰レリト聞ケルカ南京事件ニ付日本ハ單獨ニ交渉ヲ開始スル意向ナリヤト問ヘルニ付本使ハ日本領事ノ城内復帰ト南京事件ノ交渉トハ別個ノ問題ナリ日本ハ今日迄南京事件ニ付テハ交渉ヲ始メス唯程潛問題ニ付漢口ニテ交渉セントスル意向アルモ之モ只今ノ處未タ始メ居ラスト答ヘ置キタリ

462 昭和3年3月6日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉再開に関する黃外交部長との会

談について

別電一 三月六日付在上海矢田總領事より田中外務

去ル二月二十三日黃鄂ト面会ノ際黃ハ就任早々南京事件ヲ解決シ度キ考ナルカ其交渉方法ニ付各国別々ニ下相談ヲ為シ大体相談纏リタル上ニテ貴方ニテ各国間ノ打合ヲ(若シ必要ナラハ)為ス様致シ度シト申出テタルニ付実ハ日本政府モ本件至急解決ヲ希望シ本官ハ既ニ訓令ヲ受ケ居リ然モ

其要求条件タルヤ南京政府ノ立場ヲ顧念シタル最低限度ノモノナリトテ貴電第四三四号御訓令ノ大要ヲ述ヘ唯貴政府ノ組織モ出来上ラサリシニ付交渉ノ相手方ノ確定スルヲ待チ居リタル次第ニテ今回貴下ノ愈々就任サレタル事ハ甚タ好都合ト存スルニ付貴下ノ勢力ニ依リ充分各軍閥トモ相談シ此辺迄ナラハ誠意ヲ以テ實行シ得ヘシトノ決心ヲ固メ其

上ニテ再交渉ヲ開始シ急速解決シ度シ然ラサレハ再ヒ遷延ヲ重ネ徒労ニ帰スヘシト申聞ケ置キタルニ其後黃鄂南京ニ赴キ相当打合ヲ了シタルモノト見ヘ五日袁良ヲ本官私邸ニ遣ハシ別電第一一二号及別電第一一三号ノ草案ヲ示シ本官ノ批評ヲ求メタルニ付一読ノ上一ハ抽象的ニ南京政府ハ共産党ニ対シ徹底的彈圧方針ヲ取リ南京事件發生當時ト政情全然異ナレリトノ事情ヲ述ヘテ南京事件ニ関スル各國ノ要求条件タル処罰保障ニ關スル責任ヲ回避セントスル趣旨ナルヘク

二ハ昨年伍朝枢ノ提出セルモノト余リ差異ナキ様見受ケラルルモ兎ニ角精読ノ上御返事スヘシト答ヘタルニ袁ハ貴方要求条件中例ヘハ責任者タル程潜ノ処罰ノ如キ今日ニ於テハ到底実行不可能ノ要求ナリ何トナレハ若シ南京政府ニテ程潜ノ処罰ヲ承諾スレハ折角内部結束ノ要望ノ為最近南京ト武漢派トノ間ノ暗影消エントシツアル際之ヲ逆転セシムモノニシテ国民政府ノ瓦解ヲ導ク虞アリ且程潜自ラ南

京事件ニ付テハ功績コソアレ処罰等思モ寄ラスト思ヒ居レシ共產派三十余名ヲ銃殺シタルモ又翌日外人ヲ護送シテ無

(別電一)

編注 「日本外交文書」昭和期I第一部第一卷五一五文書
別電参照。

上海 3月6日後発

本省 3月7日後着

南京事件ニ関シ客年四月十一日漢口総領事ヨリ陳前外交部
長宛書翰中ニ国民革命軍カ日本居留民ヲ侵害シ造成シタル
局面ノ迅速解決ノ為トアリ又共同宣言書中ニハ之等要求ハ
決シテ中國國民ニ對スル友誼ノ為ナルハ關係國政府ノ確信スル處
ニシテ同時ニ和衷共同ノ睦誼ヲ持続シ且ツ尊嚴ヲ増サム事
ハ關係國政府ノ切望スル處ナリ之等ノ条件ハ中國一種ノ勢
力ニ對シテ為スモノニシテ此種ノ勢力コソ本事件ニ對スル
關係ヲ破壊シ且ツ友邦國國民ニ對スル支那國民ノ不信憎惡
及暴行ヲ煽動セムトスルモノナレハ云々トアル處當時右所
載ノ如キ一種ノ勢力支那ニ存在セシハ事實ニシテ此種勢力
コソ本案ニ對スル全責任ヲ負フヘキモノナリ而シテ貴國及
關係國政府ハ右勢力ノ存在ト活動ニ鑑ミ懲前防後ノ為列國
一致シテ右要求ヲ提出セラレタルモノナルヘク此間ノ苦衷
ハ國民政府ノ深ク諒トスル處ナリ

國民政府ハ前記ノ勢力ニ對シテハ夙ニ剿滅ヲ期セシモ本事
件發生ノ當時ハ政府ハ未タ南京ニ建都セス事變起ルニ及ヒ
勿卒トシテ鎮圧セン始末ニシテ其ノ後政府ハ斷然タル手段
本部長ハ國民政府名義ヲ以テ本事件ハ調査ノ結果共產黨カ
國民政府南京建都前ニ煽動シテ發生シタルモノナル實証ヲ
得タルモ貴國領事館及ヒ在留民ノ生命財産上ニ損害ヲ与ヘ
タル事実ニ鑑ミ最モ誠懇ナル態度ヲ以テ貴國政府ニ向テ遺
憾ノ意ヲ表示ス國民政府ハ在支日本人ノ生命財産ニ對シテ
ハ本來ノ政策ニ基キ軍民長官ニ通令シテ引続キ切実保護シ
居レルカ殊ニ現ニ共產黨ヲ驅逐シタルヲ以テ中外ノ友誼ヲ
破壊シ支那國民ノ友邦國民ニ對スル不信任及嫌惡ヲ意味ス
ル暴行ヲ煽動スルカ如キ勢力ハ既ニ消滅シ今後政府カ外人
ヲ保護スルコトハ必然ニシテ更ニ容易ナリ

從テ南京事件ニ類似ノ事件再発ノ憂ヒ無キハ本政府ノ自信
シ得ル処ナリ事件當時共產黨ノ煽動ヲ受ケ暴行ニ參加シタ
ル第十九師ノ軍隊ハ既ニ政府ヨリ查命ノ上解散セシメ其他
本件ニ關係アル人員ニ對シテハ政府ヨリ清党期限内ニ夫々
法ニ依リ懲弁シタルモノナルコトモ本部長ヨリ茲ニ付帶通
知シ得ル次第ナリ

國民政府ハ貴國在南京領事館ノ受ケタル一切ノ損失ニ對シ
テハ直ニ賠償スルノ用意アリ在留日本人ノ生命財產上受ケ
タル損失ニ對シテハ両國ノ友誼ヲ維持スル為効理且必要ナ

ヲトリ遂ニ此ノ種勢力ヲ根本的ニ掃除シ之ニ関係セル人物
モ亦駆逐シタリ
国民政府ノ此行動ハ啻ニ中外固有ノ睦誼ヲ増進シタルノミ
ナラス政府ノ本事件ニ対スル態度ヲ表明シタルモノナルコ
トハ国民政府ノ自信スル処ナリ国民政府ハ此新形勢ノ下ニ
於テ前記ノ勢力ハ既ニ存在セス且死灰再燃ノ余地無シト深
ク信スルカ故ニ貴国政府ノ本事件ニ対スル観測又形勢ノ改
善ニ依リ好意ト互譲ノ精神ニ基キ根本上ノ変化アランコト
ヲ切望スルト共ニ貴国カ曩ニ提出セシ要求ハ決シテ中国國
民ノ主権又ハ威信ヲ毀損セントスルノ本意ニ非サルコトヲ
確証セラレ度シ

一致シテ右要求ヲ提出セラレタルモノナルヘク此間ノ苦衷
ハ国民政府ノ深ク諒トスル処ナリ

本部長ハ国民政府名義ヲ以テ本事件ハ調査ノ結果共産党力国民政府南京建都前ニ煽動シテ発生シタルモノナル実証ヲ得タルモ貴国領事館及ヒ在留民ノ生命財産上ニ損害ヲ与ヘタル事實ニ鑑ミ最モ誠懇ナル態度ヲ以テ貴国政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表示ス国民政府ハ在支日本人ノ生命財産ニ対シテハ本来ノ政策ニ基キ軍民長官ニ通令シテ引続キ切実保護シ居レルカ殊ニ現ニ共産党ヲ驅逐シタルヲ以テ中外ノ友誼ヲ破壊シ支那国民ノ友邦国民ニ対スル不信任及嫌惡ヲ意味スル暴行ヲ煽動スルカ如キ勢力ハ既ニ消滅シ今後政府カ外人ヲ保護スルコトハ必然ニシテ更ニ容易ナリ

本件ニ関係アル人員ニ対シテハ政府ヨリ清党期限内ニ夫々法ニ依リ懲并シタルモノナルコトモ本部長ヨリ茲ニ付帶通知シ得ル次第ナリ

国民政府ハ貴国在南京領事館ノ受ケタル一切ノ損失ニ対シテハ直ニ賠償スルノ用意アリ在留日本人ノ生命財産上受ケタル損失ニ対シテハ両國ノ友誼ヲ維持スル為効理且必要ナ

463 昭和3年3月7日 在上海矢田總領事より
南京事件解決条件緩和に關し意見具申 田中外務大臣宛(電報)

南京事件解決条件緩和に關し意見具由

本省上海 3月7日後發

第一一五号

往電(四六二文書)第一一一号ニ閔シ

卑見ニ依レハ南京事件突発後当ニ一ヶ年ニ垂ントシ未タ何等解決ノ曙光ヲ見ルヲ得サルハ国民政府ノ内訌不安定並ニ列国ノ歩調不一致等ノ原因ニ依ル事勿論ナレトモ又他方列國側ニテ支那政局ノ内情ヨリ見テ平和的手段ノ交渉ニテハ到底貫徹不可能ナル要求条件ヲ固守シ居ル事モ又原因ノ一タル事ヲ否ムヘカラス素ヨリ政府ニ於テ此ノ際飽迄彼等ヲ膺懲シ置クヘシトノ御方針ナラハ格別ナルモ膺懲ハ暴行ノ直後実行スヘカリシモノニシテ南京居留民ノ復帰ヲ計リツツアル今日之ヲ為シ難キハ申迄モ無カルヘシ而モ過去一ヶ年ノ歲月カ内外ノ人心ニ大ナル変化ヲ与ヘ居ル事実モ看過スヘカラス本官ハ英國在勤中世界大戦直後「カイゼル」处罚力全英国民ノ熱望ニシテ当年ノ総選挙ニ各候補者ハ有権者ヨリ先ツ此問題ニ閔スル質問ヲ受ケ大多数ハ处罚ニ賛成ナリト回答シテ當選ヲ計リタルヲ目撃シタルカ其際心密ニ其実行ヲ危フミタリシカ果シテ其後此熱烈ナル要望モ雲消シ去リ期年ナラスシテ之ヲロニスルモノノ無キニ至レリ夫レト是トハ事情ヲ異ニスルモ又国民的感情ノ年月ト共ニ変化スル事ヲ察スル一助タリト思考ス

仮ニ今日要求条件完全ニ容レラリストノ理由ヲ以テ威嚇的運動ヲ起ストセムカ如何ニモ時機ヲ失シ列国ハ追従スル事ナカルヘキノミナラス仮令单独ニテ彼等ヲ屈服セシムルモ屈服即チ失脚ニシテ折角昨冬以来恢復シツツアル長江流域ノ貿易モ紛乱ノ為再ヒ形勢ヲ逆転セシムルモノアルヘキハ想像ニ難カラス翻テ国民政府ノ内状ヲ考察スルニ現勢力タル蔣介石一派ハ早晚没落スルモノトスルモ蔣一派ヨリ更ニ穩健ナル对外方針ヲ持スル勢力ノ出現ハ望ム可カラス而シテ蔣等カ赤露トノ絶交ヲ断行シ着々共産党ノ検挙ヲ励行シツツアル一事ハ将来南京事件類似ノ排外暴行ノ突発ニ対スル或ル意味ノ保障ナリトモ謂ヒ得可ク現ニ長江流域ヲ通シテ排外的空氣モ漸次鎮マリ当地ノ紡績ノ如キ近來ニナキ平穏ノ状況ヲ呈シツアリ從テ若シ我ニ於テ南京事件ヲ共産党ニ依リテ計画サレタル隠謀ナリト認ムルナラハ貴電第四三四号要求条件中ノ二及三ニ付テモ相当緩和ヲ加ヘ以テ本件ノ至急解決ニ資シ不快ナル印象ヲ一掃シテ人心ヲ一新スル事大局上優レル政策ナルニハ非サルカ英國ノ方針モ著シク變化シ来レル事実ニ鑑ミ特ニ茲ニ卑見ヲ開陳シテ御参考ノ一端ニ供ス

編注『日本外交文書』昭和期I第一部第一巻五一五文書

別電参照。

464

昭和3年3月(1)日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

中英間の南京事件交渉状況に関する黄外交部

長の内話について

上海發本省 3月11日後着

*第一二九号

英國公使ハ去ル五日以來当地ニ滯在中ナル處六日夜英國總領事ノ宴会ニ於テ同総領事、公使、米國總領事、郭泰祺トノ間ニ要談ヲナシタル模様ナリシカ後ニテ米國總領事カ本官ニ對シ日英両國ニ南京事件ニ閔スル条項ノミナリ自分ハ英カ自分ニハ未タ何ノ話モナシト語リタルノミニテ英國公使ヨリハ本官ニ對シ何等ノ話無カリシヲ以テ本官ハ七日同公使ヲ訪問シタルニ是非共貴下ト懇談シ度キ儀アリ追テ秘書官ヲシテ面会時間ヲ申上クヘシト言ヘルノミニテ未タ面会ノ機無キ處今日黃鄂ニ面会ノ際英支間ノ南京事件交渉ノ模

様ヲ尋ネタルニ本件ハ英國公使ト固キ約束アリテ相談カ或程度迄進ム迄ハ絶対秘密ヲ守ル事ニナリ居ル故其ノ積ニテ報告モ差控ヘラレ度シト前置キシテ大要次ノ如ク語レリ英國ノ条件ハ大要日本政府ノ要求条件ト同様ニシテ唯異ナル点ハ英國軍艦ノ砲擊事件ニ閔スル条件ト同様ニシテ唯異ナル國公使ニ對シ犯人ノ厳罰並ニ其人名表ノ交付及排外行動禁止令ノ發布等ハ全然団匪事件ノ条件ト同様ニシテ唯異ナル点ハ彼ニ於テ上諭トアルヲ訓令トナリ居ルタケナリ此ノ人心ノ変化セル時代ニ於テ何人力局ニ當ルモ斯ル条件ヲ其儘承諾スル勇氣ヲ有スルモノ無カルヘシト述ヘ今朝モ長時間論議シタル結果大体ニ於テ英國公使ハ我主張ヲ容レタルヲ以テ目下争点ハ賠償問題ニ在リテ英國側ハ支払ノ方法ヲ明示セヨト迫リタルモ自分ハ賠償要求ノ總額ニ对スル大体ノ見当付カサレハ一時ニ支払フカ或ハ年賦支払ノ方法ニ依ルヘキカ等ノ点ハ確答シ難シト答ヘ押問答中ナリ自分ハ一、各領事館ノ復旧二、直接身体上ノ被害者ノ賠償三、財產上ノ損害ノ三段ニ分チ逐次実行致度シト主張シタルニ英國側ハ之ニハ異議無キ模様ナリ要スルニ英國公使ハ既ニ福州ニ於テ支那官憲ヲシテ英國ノ対南方方針ハ緩和シ南京事件ノ

如キモ出来ルタケ互譲シテ至急解決方ヲ計度キ希望ナリト
ノ旨ヲ南京政府ニ打電セシメタル程ニテ当地ニ於テモ既ニ
北京ヲ出テヨリ日数モ多ク経チタルヲ以テ急キ帰任スル必
要アリトテ解決ヲ焦リ居ルニ付案外早ク纏ルヤモ岡ラレス
又米国ニ対シテハ準備遅レタレトモ何第三師長ヲシテ対案
ヲ提出セシメタリ云々

465 昭和3年3月13日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

南京事件解決交渉経過に関する英國公使の四

國総領事に対する談話について

別電 三月十三日着在上海矢田總領事より田中外務

大臣宛第一三四号

英國公使、黃郛間南京事件解決案

本省 3月13日前着 上海 発

*第一三三号

十一日午前仏總領事代理「メリエ」日曜日ニ拘ラス至急相
談シ度キコトアリトノ事ニ付面会シタルニ「メ」ハ昨日南
京ニ赴キ国民政府ノ同意ヲ求メ自分ハ本国政府ニ打電シ
テ其ノ承認ヲ求メタリ尚自分ハ本国政府ニ對シ之カ今日南
京政府ヨリ得ラル^(最次カ)大限度ノモノナル事現政府カ倒ル時

ハ再ヒ反動起リ更ニ惡シキ政府ノ樹立セラルル虞コソアレ
ヨリ良キ政府ノ出現ハ望ミ無キ事既ニ一ヶ年ニ亘リ何ノ為
スコトモ無ク経過シタル列國側カ今更強キ要求ヲ貫徹セシ
モノナリ

ムル事不可能ナリトノ意見ヲ進言シタルトテ本官ニ其ノ意
見ヲ求メタルニ付全然同感ニテ現下ノ支那ニ於テハ明日ノ
事ヲ顧慮スルコトハ何モセヌ事ナリ今日存在シ居ル政權ヲ
相手ニ其ノ日限り交渉スル外無シ本官モ南京事件ノ解決ハ
今日カ良キ時機ナリト思ヒタルニ付其旨東京ヘ電報シタル
モ何等未タ回訓無ケレハ政府ノ御方針ニ付テハ何トモ申上
ケラレスト回答シ置ケリ

(欄外記入) 英公使二月十日福州着、二月十三日同地発

(別電)

本省 3月13日前着 上海 発

*第一三四号

二、自發的ニ且解決發表ト共ニ国民政府ヨリ排外暴動取締
令ヲ下ス事(右案文モ英國公使朗読シタルカ大体昨年六
月三日付王寵惠トノ交渉案文第三項ノ文句ヲ緩和シタル
モノナリ)

三、賠償ニ付テハ大体前記王ニ提出シタル案文ノ儘トシテ
其ノ方法ニ付最初支那側ヨリ領事館ヲ先ニスルトノ話ナ
リシカ英國公使ヨリ個人ヲ先ニシタシトノ希望出テ先ツ
賠償項目ヲ二種ニ區別シ(一)ハ個人ノ身体上ノ被害及財產
上ノ損害(二)ハ会社公共團体政府ノ損害トシ(一)ヲ先ニスル
コト

四、支払方法ハ或ル一定額ヲ先ツ国民政府ヨリ供託シ各國
委員会ノ査定済次第其ノ比例ニテ各国ニ分配交付スルコ
ト(但シ公使ハ黃ハ會議中只当座ノ思付ナルカ国民政府
トシテハ年賦支払ノ方法ヲ採ルトシテ金額一ヶ年百万弗
以上ノ支払ハ不可能ナルヘント述ヘタルカ右他日ノ交渉
ヲ拘束スルヲ得サルモ参考トナルヘシト付言セリ)

五、英國軍艦ノ南京砲撃ニ付テハ砲撃(「ボンバードメン
ト」)ナル文字ヲ避ケ右ハ英國居留民ノ生命財産ノ保護
下犯人ノ嚴重搜索逮捕方命令ヲ下ス事(大体往電第一
(四六二文書)
一一号末段ノ黃郛ノ考案ト同様ナリ)但シ其ノ案文ハ前
以テ英國側ノ同意ヲ要スル事(公使ハ右案文ヲ朗讀セ
リ)

京事件ニ関スル公文(往電第一一二号)ヲ受領シタリト
告ケ英國公使ヨリ何等聞ク所アリヤト質問セルニ付未タ無
シト答ヘタルニ英國公使ハ米國總領事ヲ呼ヒ万事相談シ居
ル模様ナリト述ヘ種々相談スル處有リタルカ結局「メ」カ
同夜英國總領事ヲ往訪シ本件交渉ノ経過ノ模様ヲ率直ニ質
問スルコトニ打合セタル処翌十二日朝英國總領事ヨリ南京
事件交渉ノ結果説明ノ為米、仏、伊關係總領事ト共ニ午餐
ニ招キ度シトノ電話アリ出席シタルニ食後英國公使ヨリ福
州ニ於テ国民政府ヨリ南京來訪方申出来リタルニ對シ南京
事件ノ解決ヲ為シ訪問シ得ル様取計ヒ得ハ往訪スヘシト回
答シテ端緒着キタルニ付上海總領事ニ電訓シ南京政府側ト
予備交渉ヲ為スヘシト命シ當地着以来数回黃郛ト折衝シ昨
夜一段落ヲ告ケタルヲ以テ(別電第一三四号)黃ハ^(十二日)今朝
南京ニ赴キ国民政府ノ同意ヲ求メ自分ハ本国政府ニ打電シ
テ其ノ承認ヲ求メタリ尚自分ハ本国政府ニ對シ之カ今日南
京政府ヨリ得ラル^(最次カ)大限度ノモノナル事現政府カ倒ル時
ハ再ヒ反動起リ更ニ惡シキ政府ノ樹立セラルル虞コソアレ
ヨリ良キ政府ノ出現ハ望ミ無キ事既ニ一ヶ年ニ亘リ何ノ為
スコトモ無ク経過シタル列國側カ今更強キ要求ヲ貫徹セシ
モノナリ

上已ムヲ得サリン措置ナリシモ夫カ為支那人ニ損害ヲ与
リ)

ヘタル事ニ対シ英國政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スルコト
六、最後ノ国民政府ノ希望ニ関スル点（往電第一一三号末
段ト同文）ニ対シ英國公使ノ回答案ヲ朗読シタルカ其ノ
趣旨ハ不平等条約ノ改訂等ハ英國政府ノ希望スル処ナル
旨ヲ力説シ一昨年以來発表シタル二回ノ覚書ヲ引用シ極
メテ友誼的文宇ニ満テルモノナリ

七、右解決案ニ一致スレハ英國公使ハ南京ニ国民政府ヲ訪
問スヘシ

466 昭和3年3月13日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

南京事件解決草案を我が方受領の事情回電方

訓令

本省 3月13日後6時発

*
第二八号
(四六二文書)

貴電第一一一号ニ閲シ

左ノ点折返シ回電アリ度シ

(一) 貴電第一一一号及第一一二号草案ヲ示シ貴官ノ意見

ヲ求メタルモノト認ムル処貴電第一一二号ニ依レハ仏國側

(三) 貴電第一一二号ノ案ヲ客年七月ノ伍朝枢案ト比較ス
ルニ（イ）事件連累者ニ対スル措置ノ詳細ナル「ステート
メント」ヲ提出スルコト及（ロ）将来ニ対スル禁止令發布
方ニ関スル約束ノ二点ヲ含ミ居ラス（イ）ハ貴電第一一二
号後段袁良ノ談ニテ了解シ得ルモ（ロ）ノ点ハ如何ナル趣
旨ニ基クモノナリヤ

リヤ

在支公使ヘ転電アリ度
在支公使ヘ転電アリ度

467 昭和3年3月13日 在中國芳沢公使より
田中外務大臣宛（電報）

南京事件交渉内容に関する英代理公使の説明
について

北京 発
本省 3月13日後着

*
第三〇八号
(四六八文書)

往電第三〇九号ニ閲シ

三月十二日午後英國代理公使來訪南京事件ニ付「ラムブソン」ハ南京政府当局ト交渉セルカ之ニ付テハ上海日本總領事ハ詳細承知シ居ルト思フカ尚一通り説明ノ為來レリト述べタルニ付日本總領事ハ英國側カ交渉ヲナシツタル事ハ承知セルモ詳細ノ事ハ承知セサルモノノ如ク又日本總領事ハ南京政府当局ヨリ交渉ヲ受ケタル事ハ外務大臣及本使ニモ電報アリタルモ日本政府ハ南京政府ノ提議ニ対シ未タ決定ヲ与ヘス英國側ノ交渉ノ内容ハ如何ナリヤト問ヒシニ同代理公使ハ三点アリ第一謝罪第二処罰第三賠償之ナリ謝罪ニ付テハ南京側ハ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルニ異存無キモ目下ノ南京政府当局ハ本件當時ニハ（脱）居ラス且當時事

ハ既ニ貴電第一一二号ノ公文（草案ニ非ス）ヲ受領シタルモノノ如キモ右ハ如何ナル事情ニ依ルヤ又英國側交渉ノ模様ヲ察スルニ貴電第一一二号ノ案ニ付論議シ居リ貴電第一一二号ノ書翰ハ問題トナリ居ラサルヤニ認メラル處右書翰案ハ我方ニノミ提出セラレタルモノナリヤ果シテ然ラハ其ノ趣旨如何
(二) 貴電第一一二号書翰ハ一応之ヲ貴官ニ交付シ貴官ノ回答アリタル上詳細ヲ協定スル趣旨ナリヤ或ハ事件解決ノ協定出来タル上其ノ形式トシテ此ノ書翰ヲ提出スル趣旨ナリヤ
(三) 貴電第一一二号ノ案ヲ客年七月ノ伍朝枢案ト比較スルニ（イ）事件連累者ニ対スル措置ノ詳細ナル「ステートメント」ヲ提出スルコト及（ロ）将来ニ対スル禁止令發布方ニ関スル約束ノ二点ヲ含ミ居ラス（イ）ハ貴電第一一二号後段袁良ノ談ニテ了解シ得ルモ（ロ）ノ点ハ如何ナル趣旨ニ基クモノナリヤ
在支公使ヘ転電アリ度
在支公使ヘ転電アリ度

国政府ノ承認ヲ得レハ取極締結ノ運ニ至ルヘシト答ヘタリ

468 昭和3年3月13日 在中国芳沢公使より 田中外務大臣宛(電報)

南京事件処理をめぐる英國の態度に関する仏國公使の談話について

* 第三〇九号
上海発本官宛往電(四六四文書)
第一二九号ニ閲シ
本省 3月13日後着

十二日午前仏國公使來訪最近南京政府ヨリ南京事件ニ付上
海仏國總領事ニ提議アリタリト言ヘルニ付本使ハ日本總領
事ニモ提議アリ只今日本政府ニ於テ考慮中ナルカ貴公使ハ
如何ニ考フルヤト聞キシニ同公使ハ目下ハ事件發生當時ト
事情モ大ニ異ナル故大概ノ處ニテ結末ヲ着クル方得策ナル
ヤニ自分ハ考フト答ヘタルニ付本使モ自分一己トシテハ貴
官ノ通り考へ居レリト述ヘタルニ同公使ハ英國ハ南京事件
結了ノ上ハ更ニ第二ノ措置トシテ南京政府ノ承認ヲ断行セ
サルヤト思ハルト述ヘタルニ付本使ハ右ハ何等確實ナル根

像ニ基クモノナリヤト尋ネタル處同公使ハ否單ニ自分ノ想
館ヨリ參事官ヲ派駐セシメタル事アルカ故ニ此程度位ノ事
ハ為シ兼ネマシキヤニ考フト述ヘタルニ本使ハ其位ノ事ハ
オハ実行スルヤモ知レサルモ仮リニ右様ノ実行ヲ見ル場合
ニ於テモ總領事ヲ復帰セシムルニ大差無ク日本ノ如キ現ニ
領事ヲ復帰セシメテ實際上ハ別段ノ不自由ヲ感セスト言ヒ
タル處同公使ハ領事官以外ニ外交官ヲ一人ニテモ差遣スコ
トハ多少別種ノ意味ヲ發生スルモノト思考スル旨答ヘタリ
尚右ニ付往電(四六七文書)
第三〇八号英國代理公使ト南京事件ニ閲シ会
談後同代理公使ニ對シ同事件幸ヒニ結了スル上ハ英國トン
テ公使館員ヲ南京ニ派遣スルカ如キ事ヲ考慮中ナリヤト率
直ニ尋ねタル處斯ノ如キ事ハ未タ考慮シ居ラスト答ヘタリ

469 昭和3年3月13日 在中国芳沢公使より 田中外務大臣宛(電報)

南京事件早期解決の必要について

北 京 3月13日後着
本省 3月14日前着

ハ大体上海発閣下宛電報(四六三文書)
第一一五号ノ意見ニ從ヒ条件ニ相
当ノ緩和ヲ加ヘ遲滞ナク解決方相成様致度ト思考ス尤今回
英國側カ単独ニ解決ヲ計ルハ我方ヲ始メ關係國ニ對シテハ
不信ノ嫌無キニ非サルモ英米側トシテハ我方ノ南京領事復
帰ニ對シテハ往電(四六〇文書)
第三二号及ヒ第九(四六一文書)
七号ノ通不満ノ氣配ヲ
示シ且我方トシテモ程潛問題ニ付テハ客年貴電第五四五号
ノ如ク事件ノ首魁者タル程潛ニ對シテ我方独自ノ立場ヨリ
解決ヲ計ラントシタル關係モアリ此ノ際之等ニ拘泥スル事
ナク至急解決方御詮議相成様致タシ

470 昭和3年3月14日 田中外務大臣より 別電 三月十四日付田中外務大臣より在上海矢田總領事宛(電報)

右解決条件に関する訓令

南京事件至急解決方の訓令

領事宛第三〇号

本省 3月14日後8時発

第三一八号
往電(四六七文書)
第三〇八号及上海発閣下宛電報(四六五文書)
第一三三号ニ閲シ
「ランプソン」ハ南方トノ關係改善ニ焦慮シタルト他方日
本側ノ南京領事復帰若ハ程潛問題対策等ニ刺戟セラレタル
為カ此際出来得ル限リノ讓歩ヲ為シテ迄モ南京事件ノ解決
ヲ計ラムトスルモノノ如ク往電第三〇八号ノ通り英國代理
公使ハ只今ノ処交渉ハ五分五分ノ兼合ノ状態ニ在リト言ヘ
ルモ上海発閣下宛電報第一三三号ニ依レハ交渉ハ大体纏マ
リ居ル模様ニモ見受ケラルル處此際若シ英國側カ率先シテ
南京当局ト取極ヲ為ス時ハ我方トシテハ夫レ以上ノ解決条
件ヲ得ルコト不可能ナルノミナラス南京側ニ対スル我方ノ
立場モ甚々氣拙クナルヘキニ付テハ此際至急本件ノ解決ヲ
考慮スルコト必要ナルヘク而シテ現下四困ノ状態ハ事件當
時トハ甚シク變化シ居ル事情モアルト同時ニ本問題ノ如キ
ハ関税問題ノ如キ永久的実利問題ト異リ主トシテ体面問題
ナルカ故ニ我方ニ於テ至難ノ条件ニ(損害賠償ノ如キハ英
国側ノ損害額千万元以上ナルニ比シテハ我方ハ遙カニ少額
ナリ)拘泥スル時ハ事実解決ノ目的ヲ達スル事能ハサルノ
ミナラス我方ノミ独リ取残サルル虞ナキニアラサルニ付テ

貴電(四六二文書)
第二九号
第一一一号ニ閲シ

昭和3年3月14日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

（二）損害賠償ノ点大体異議ナキモ最モ重要ナル事項ニ付後ニ至リ「両国ノ友誼ヲ維持スル為効理且必要ナル範囲内」云々ノ文句ヲ楯ニ賠償ノ範囲ニ付云為スルコトナカラシムル為メ右文句ハ之レヲ削除セシムルコト然ルヘク尚中央調査委員会ナルモノハ單ニ賠償額ノ査定ヲ為スモノニシテ日支両國委員ヲ以テ組織スルモノト了解スルニ付此意味ヲ明カニセシメラレ度

（ホ）不平等条約改訂問題ニ對スル帝國政府ノ同情的態

度ハ支那側ニ於テモ充分諒解シ居ル筈ニシテ此態度ハ今後トモ機會アル毎ニ繰返シ之レヲ表明スルニ躊躇セ

サルモ南京事件ト不平等条約問題トハ全ク別個ノ問題ニシテ本件解決ニ際シ不平等条約問題ヲ担キ出スカ如

キハ頗ル其ノ当ヲ得ス我國上下ノ同情ヲ得ル所以ニモ

アラサルノミナラス南京政府ニ於テ是非トモ此場合之

レヲ主張セサルヘカラサル事情有リトハ如何ニシテモ

信シ得サルニ付此点ハ是非トモ削除セシメラレ度

貴電(四六二文書)第一三八号
第一三八号

上海 3月14日後発
本省 3月14日後着

中国側南京事件解決草案を我が方受領の事情 について

（二）損害賠償ノ点大体異議ナキモ最モ重要ナル事項ニ付後ニ至リ「両国ノ友誼ヲ維持スル為効理且必要ナル範囲内」云々ノ文句ヲ楯ニ賠償ノ範囲ニ付云為スルコトナカラシムル為メ右文句ハ之レヲ削除セシムルコト然ルヘク尚中央調査委員会ナルモノハ單ニ賠償額ノ査定ヲ為スモノニシテ日支両國委員ヲ以テ組織スルモノト了解スルニ付此意味ヲ明カニセシメラレ度

（ホ）不平等条約改訂問題ニ對スル帝國政府ノ同情的態度ハ支那側ニ於テモ充分諒解シ居ル筈ニシテ此態度ハ今後トモ機會アル毎ニ繰返シ之レヲ表明スルニ躊躇セ

サルモ南京事件ト不平等条約問題トハ全ク別個ノ問題ニシテ本件解決ニ際シ不平等条約問題ヲ担キ出スカ如

キハ頗ル其ノ当ヲ得ス我國上下ノ同情ヲ得ル所以ニモ

アラサルノミナラス南京政府ニ於テ是非トモ此場合之

レヲ主張セサルヘカラサル事情有リトハ如何ニシテモ

信シ得サルニ付此点ハ是非トモ削除セシメラレ度

「ノート」ヲ持チ帰リタリ

南京政府ノ提案ハ客年往電第(編注)四三四号我方解決案トハ尚可成リノ懸隔アルモ現在ノ南京政府ヲシテ此際本件ヲ解決セシムルコト大局上得策ナリト認メタルニ依リ大体先方ノ案ヲ認メ急速解決ノ方針ニ決定シタルニ就テハ貴官ハ別電第(編注)三〇号ニ基キ解決方至急御尽力アリ度

編注『日本外交文書』昭和期I第一部第一卷五一五文書別電参照。

（別電）

本省 3月14日後8時発

*第三〇号
第三〇号(四六二文書別電)草案ハ我方トシテ格別其要ヲ認メサルモ先方ニ於テ是非発送シ度シトノコトナラハ之レヲ受領スルニ敢テ異議ナシ

二、貴電(四六二文書別電)第一一三号草案ハ左記ノ主旨ニヨリ適宜之レヲ改メシメラレ度

（イ）陳謝ノ点ハ大体差支ナキモ文書ノ外ニ相当ノ形式ヲ以テ其誠意ヲ表明セシムルノ手段ヲ講セシメラレ度

（ロ）将来ノ保障ニ付テハ此際如何ナル形式ニ於テモ新

ニ通令ヲ發スルコトヲ認メ居ラサルトコロ此点ハ客年七月ノ伍朝権案ニ比スルモ甚タ不満足ナリ本草案中ニハ「支那国民ノ友邦国民ニ対スル不信任及嫌惡ヲ意味スル暴行ヲ煽動スルカ如キ勢力ハ既ニ消滅シタリ」ト稱シ以テ新ニ禁令ヲ出スノ要無シトノ論拠トナシ居ル力如キモ廣東、福建、湖南方面ニ於テハ今尚共産党ノ党事件ノ如キ戰慄スヘキ不祥事サヘ勃発シタル程ナレハ南京政府ニ於テ或ル種ノ禁令ヲ發スルコトノ要ハ今尚依然トシテ存在スルモノト言ハサルヘカラサルニ付保障ノ点ハ伍朝権案ノ程度ニ改メサスコト致度シ

（ハ）処罰ノ点ハ支那側ノ最モ困難トスル所ナルヘキニ依リ枉ケテ讓歩シ国民政府ニ於テ其ノ調査ノ結果事件責任者又ハ連累者ト認ムル者ノ氏名及之ニ對スル措置ヲ本書翰ノ付属トシテ通知セシムルコトヲ以テ我慢シ程潜處罰ノコトハ此際南京政府ニ對シテハ強テ主張セサルヘシ尤モ貴電第一一一号記載ノ林祖涵等ノ徹底的搜索ヲ命スルコトハ必要ナルニ付其旨ヲ本書翰中ニ明カニスルコト

二、（ロ）ノ点ハ往電(四六二文書)第一一一号末段袁良ノ談話中（処罰並保障ノ字句ヲ訂正シテ此命令ヲ引用スルコトニ致シタシ）トアル通り禁止令ハ（イ）ト同様自發の命令ノ形式ニ依ルコトヲ考慮シ居レリト述ヘタルニ付本官ハ伍朝権提案第三項ト右ニ對スル閣下御訓令第三ヲ対照シタル「ノート」ヲ示シ再考ヲ求メタルニ相談ノ上返事スヘシトテ右

昭和3年3月14日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

南京事件に關し処罰および保障問題を讓歩し

英國よりも早期に解決すべき旨意見具申

上 海 3月14日後発
本 省 3月14日後着

第一四〇号

(四七一文書)
往電第一三八号ニ関シ本官屢次ノ電報ニ於テ文意ヲ尽ササル處アリ又反問ヲ受ケ却テ御回訓ヲ遅ラセタル結果トナリ遺憾ニ堪ヘサル處要スルニ之等諸点ハ形式上ハ重要ナレトモ実質ニ關係少キ問題ニシテ一例ヲ申セハ保障禁止令ニ將如何ナル文句ノ証文ヲ入レサセタリトモ南京軍閥ニ於テ将来排日暴行ヲ取締ル誠意ナケレハ空文ニ帰スヘク茲ニ本官ノ密カニ焦慮ニ堪ヘサルハ英國公使來着以来形勢ハ急転直下シ我方ニ於テ斯カル問題ニ拘泥シツツアル間ニ自由裁量ヲ与ヘラレ居ル公使カ南方支那人カ山東発兵以来動モスレハ我対支方針ノ北方派援助ニ關シ疑惑ヲ挾ミツツアル絶好ノ機會ヲ逸セス南京政府ノ意ヲ迎ヘテ急遽本件ヲ解決シ以

テ五・三十事件以来南方ニ瀰漫シタル排英感情ヲ一掃シ大勢ヲ挽回スルコトアリハセスヤノ点ナリ從テ我国ノ直面セル根本問題ハ

一、英國カ率先シテ本件ヲ解決スルモ之ヲ顧慮スル處無ク我方単独ニテ交渉シ英國側ヨリ有利ナル条件ヲ獲得スル事ニ務ムヘキカ

二、又ハ形勢ノ変化ニ鑑ミ謝罪賠償（金額支払等ヲ含ム）ノ二点ヲ確實ニ握ルニ於テハ処罰保障ノ形式ニ関スル点ハ讓歩ヲナシ英國ヨリモ先ニ（少クトモ同時ニ）本件ヲ解決スヘキカノ岐路ニ立テル点ニ在リ

若シ一、ノ方針ヲ取ラムカ日本獨リ取残サルル結果トナリ他方北伐進捗ト共ニ山東出兵問題起ラムカ或ハ南支一帶ニ排日運動再発シ五・三十事件以前ノ状態ヲ現出シ再ヒ日英地位ヲ顛倒スル懸念アリ本官ハ二、ノ方針ヲ大局ヨリ観タル政治的見地ヨリ上策ナリト信シ居ル次第ハ往電第一一五号ノ通ナリ右ニ関スル我政府ノ御方針至急御回訓ヲ請フ尚十二日英國公使ト会食ノ際モ同公使ハ本官ニ對シ露國ノ援助ヲ離レタル国民軍ハ他ノ外国ノ援助ヲ得サレハ革命ノ目的ヲ達成シ難キハ明カナレハ若シ列国ニシテ此ノ援助ヲ

与ヘサラムカ反動ハ免カレサルヘク列国ノ權益ハ再ヒ危殆ニ瀕スヘシト述ヘ食後各領事ニ説明ノ際同公使ハ日本ハ程

潜ノ謝罪ヲ主張シタルモ自分ハ其実行困難ナリト認メテ参加セサリシト述ヘ英國総領事ハ日本カ南京領事館ノ復帰ヲナンタル事ヲ披露シテ本官ニ對シ其後在留民復帰ノ模様ニ付質問スル處アリタルカ右ハ殊更為サレタルモノト感セラレタリ其際米國総領事ハ終始沈黙シ予メ本件交渉ノ相談ニ与リ居ル事ヲ裏書セシメタリ御参考迄申添フ

473

昭和3年3月14日 在上海矢田総領事より
黄外交部長より南京事件解決条件中の処罰および保障に関する発表案提示について

別 電一 三月十四日付在上海矢田総領事より田中外務大臣宛第一四三号

处罚に関する南京政府発表案

二 三月十四日付在上海矢田総領事より田中外務大臣宛第一四四号

保障に関する南京政府発表案

上 海 3月14日後発
本 省 3月15日前着

第一四二号

(四七一文書)
往電第一三八号ニ關シ十四日袁良本官ヲ來訪シ黃郛ニ隨伴シテ南京ヨリ帰レルカ日本政府ヨリ何等訓令ヲ接手セスヤト質問セルニ付未タナリト答ヘタルニ実ハ黃部長ヨリ貴下ニ伝言アリ貴方ニ對シ特ニ誠意ヲ有スル証左トシテ内密御目ニ懸ケ度キ書類アリトテ別電第一四三号同第一四四号ヲ示シ既ニ英米側ノ内諾ヲ得居ルニ付南京政府ハ交渉ノ如何ヲ待タス至急自發的ニ發表スル事トナレリ（辞句ハ多少訂正サルルコトアルヘシ）ト述ヘタルニ付本官ハ日本政府ヨリ未タ何等意思表示無キニ拘ラス我方要求条件二、三ト全然内容ヲ同ウスル處罰保障ノ二項ニ付勝手ニ發表サルルモ何等我方ハ拘束サル事無カルヘシ唯貴方ニ於テ右様ノ措置ヲ取ル事ハ貴我ノ交渉上面白カラサルニ付兔ニ角日本政府ノ同意アル迄発表ヲ差控ヘラレ度キ旨黃郛ニ伝達方依頼セルニ之ヲ承諾シ然ラハ明十五日夕刻再ヒ本省ヨリ返事ノ有無ヲ聞キニ參上スヘシトテ引取りタリ尚其際貴電

(四六六文書)
第二八号ニノ第一ノ書簡案ニ付確メタルニ直ニ照会文其他

ノ御希望通リノ形式ニテ貴下宛ニ送リ交渉再開ニ異存無キ
旨御返事ヲ得テモ良シ又条件ノ相談纏リタル後ニスルモ貴
方ノ御都合ニ任スヘシトノ事ナリ

(別電一)

上 海 3月14日後発
本 省 3月15日前着

第一四三号*

查スルニ客年ノ南京事件ハ國民革命軍カ將ニ敵軍ノ余孽ヲ
肅正セントシ秩序混乱ノ際ニ於テ共產党ノ煽動アリテ軍隊
及地方ノ流民ノ所為ニ係リ大胆ニモ友邦ノ駐寧各領事館及
城内城外ノ居留民住宅ヲ強掠シ甚タシキハ領事館館員及外
國居留民ヲ殺傷セル事實アリタルハ殊ニ痛恨ニ堪ヘス次テ
高級幹部ニ於テ通報ニ接シ立所ニ夫々派兵シテ彈圧シ直ニ
事ヲ肇メタル兵員徐長勝、張發貴、王正發、馬和生、黃其
昌等十九名及流棍、楊勝生、趙次炎、張愛林、陳名秀等三
十二名ヲ其ノ場ニ於テ銃殺ニ處シタル外林祖涵（軍隊政治
部主任）一名ハ該案ノ主犯ナルニ付既ニ年月日政府
ニ於テ逮捕令ヲ發シタル処今日ニ至ル迄未タ捕縛スルニ至

ラス軍民長官ハ所属ニ令シ一律ニ厳密ニ捜査ノ上逮捕シ其
ノ余ノ逃亡犯人亦之ヲ查明逮捕シ法ニ拠リテ懲弁シ以テ乱
源ヲ遏ムヘシ茲ニ令ス

(別電二)

上 海 3月14日後発
本 省 3月14日後着

第一四四号*

查スルニ外人生命財産ノ保護ハ國家ノ尽ス可キ職責ニシテ
国民政府ハ在留外国人ノ保護ニ付テハ既ニ屢々通令シ置キ
タルカ唯秩序定マルモ一二不良分子カ尚潜伏シテ何等煽動
スル事保シ難キヲ以テ各省軍民長官ハ所属機關ヲ督励シテ
厳密ニ之ヲ查察シ若シ対内対外ノ越規行動等アルモノハ切
実ニ制止シ以テ中外人民ヲシテ安居樂業ヲ得セシムル事切
望ニ堪ヘス茲ニ特ニ令ス

474 昭和3年3月15日 田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）
程潛処罰に関する我が政府の方針について

第三一号*

本省 3月15日後6時発

貴電第一四二号ニ関シ

往電(四七〇文書別電)第三〇号二ノ（ハ）中程潛処罰ノコトハ此ノ際南京政
府ニ對シテハ強ヒテ主張セサルコトト為シアル處右ハ現在
各般ノ事情ヨリ南京政府ニ對シ程潛ノ処罰ヲ求ムルハ不能
ヲ強ユルモノナルコトヲ諒トン之レヲ現在ノ同政府ニ要求
スルコトナカルヘシト云フニ止リ程潛ノ責任ヲ全然免除シ
タリト云フ次第ニ非ラス貴電(四七〇文書)第一一号袁良ノ言ノ如ク程
潛ハ責任ナシトカ或ハ却テ功勞アリタリトナス考ハ我方ノ
承認シ得サル所ニシテ從テ将来適當ノ機会タニアラハ直接
程潛ニ對シ其ノ責ヲ問フノ措置ニ出ツルコト有ルヤモ知レ
ストノ心持ナリ貴官御含置迄

貴官ニ於テ既ニ適宜ノ措置ヲ執ラレタルヤモ計ラレサルカ
貴電(四七三文書別電)第一四三号及第一四四号ノ兩案ハ解決条件ノ一部ヲ為
スモノニシテ一般解決モ目先ニ見エ居ル今日之レヲ引離シ
取急キ發表スルハ如何ニモ妙ナラサルニ付解決文書ノ交換
ノ際迄待タシムル様御措置アリ度シ

476 昭和3年3月16日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

南京事件解決条件中黃外交部長の陳謝を中国

側拒否について

本省 3月16日前着
上海 3月16日前着

475

昭和3年3月15日 田中外務大臣より

在上海矢田總領事宛（電報）

国民政府の南京事件関連文書発表延期を交渉

方訓令

*第三二号

十五日予報ノ如ク袁良來訪セルニ付訓令接到セル旨ヲ述ヘ
貴電第三〇号御電訓ノ趣旨ニ基キ縷々説示シ（イ）陳謝ノ
件ニ關シ我方ハ英米ト異リ砲擊ニ參加セサリシノミナラス
殊ニ水兵一名暴兵ノ銃弾ニ殪レ當時ノ駆逐隊司令以下責任

本省 3月15日後6時発

*第三二号

者ハ引責退職スルニ至レルハ南京政府ニ於テモ既ニ御承知ノ事ナルヘシト述ヘ文書以外ニ黄外交部長本官ヲ來訪シ陳謝ノ意ヲ表スヘシト要求シタル処袁良ハ既ニ英米ニ於テハ原案ニテ異存ナキニ独リ日本領事ノミヲ訪問陳謝スル事ハ黄部長ノ立場トシテ甚タ実行困難ナリ黄部長ハ御承知ノ通余リニ日本ニ好シトノ意味ニテ英米ヨリ今尚疑惑ノ眼ヲ以テ見ラレ居ルニ此ノ際日本ノミ黄郛自身ノ陳謝ヲ要求セラル時ハ日本ノ為ニ最好意ヲ持スル人物ヲ日本カ最強ク窘メ付ケル結果トナリ殊ニ今回ノ南京事件解決ニ付テハ伍朝枢一派ノ反対派ハ黄郛ノ遣方ニ付欠点ヲ探シ機會アラハ失脚セシメムト企ミ居ル際ナレハ何トカ再考ヲ願度シ陳謝ノ主体ハ「本部長」ヲ「国民政府」ト改ムル事ニ譲歩スルモノ差支ナシト申出タルニ付

本官ハ夫レニテハ同シコトナリト答ヘ御訓令ヲ支持シ次ニ（口）将来ノ保障並ニ（ハ）処罰ノ点ハ既ニ昨日命令案ヲ御目ニ掛ケタルカ右ハ伍朝枢案ト實質上同様ナリ又処罰者ノ氏名等ノ通知及林祖涵ノ逮捕令發布モ日本政府ノ要求通りニ実行スル訳ナリト述ヘ（ニ）損害賠償ノ件「両国ノ友誼」云々ノ文字ヲ削除スルコトハ内政關係上恰モ不当ノ巨想ヲ与ヘラレ南京政府ハ勿論黄部長ノ将来ノ立場ヲ良クスル所以ナル旨ヲ繰返シ容易ニ削除ヲ肯セス依テ本官ハ全部ヲ通シテ種々論議ヲ上下シタル後左ノ通り折合ヒタリ

（イ）陳謝ノ点ニ付本官ヨリ黄郛ノ出頭陳謝ハ南京政府ニ於テ実行ヲ困難トスル理由ヲ今夜直ニ日本政府へ電報シ再考ヲ仰クヘキニ付其代リ袁良ニ於テ（口）保障（ハ）処罰ノ二点ハ當方提案ノ趣旨ニ基キ修正スルコト（貴電ニ基キ予メ用意シ置キタル修正案ヲ交付シ置ケリ）（ニ）ノ両国ノ友誼云々ノ文句ハ無条件ニテ削除スルコト（ホ）ノ不平等条約改訂云々ノ文句ハ「不平等」ナル文字ヲ削リ日本政府ノ迷惑ニナラサル程度ニ修正シ明十六日午後二時迄ニ本官ニ提出スルコト

~~~~~

477 昭和3年3月16日 在上海矢田總領事より

田中外務大臣宛（電報）

英國との南京事件解決交渉進捗に鑑み日本の

額ヲ譲歩スルカ如キ印象ヲ与ヘ好マシカラス他日此ノ文句ヲ利用シテ賠償ノ実行ヲ延引セントスル考ヘハ毛頭之ナキニ付若シ強テ前記ノ文句ヲ変ヘヨト云ハルレハ英米同様「國際公法ニ準拠シ」ノ文句ニ改ムヘキカト言ヘルニ付本官ハ夫レハ原案ヨリ更ニ妙ナラスト答ヘ（貴電中央調査委員会ナルモノハ原文ニナシ中日ノ間違ナリ）（ホ）不平等条約改訂云々ノ一文ハ不必要且不穩当ナリトテ飽ク迄削除ヲ主張セル処袁ハ国民政府ニ於テモ此点ハ重キヲ置ク処ニシテ内政上人心一新ノ政治的意義ヲ付シ居レリト述ヘ英國政府ハ此点ニ関シ国民政府ヲ喜ハス回答案ヲ提出セリトテ往電第一三四号第六項英國公使ノ読ミ聞カセタル英文ノ訳文ヲ示シ（其ノ最後ノ一節ニ「中国人民ノ現行条約ノ各種關係ヲ根本ヨリ修正セントスル志望ニ對シテハ英國政府ハ素ヨリ友誼ト同情アル態度ヲ抱キ居レリ之二回ノ覚書及七項ノ提案ニ於テ之ヲ証ス右七項ノ実施如何ハ全然貴国政府カ同様ノ善意ト誠意ノ精神ヲ表示スルヤ否ヤニ依ル）トアリ

日本ニ於テハ從来声明シタル支那ノ国民的要望ニ對スル同情的態度ヲ茲ニ繰返シ表明セラレテモ何等新シキ義務ヲ負

至急回答方を中國側要請について

上海 3月16日前發  
本省 3月16日前着

\*  
第一五一號  
貴電第（四七五文書）三二二號ハ往電（四七六文書）第一四五〇號會見後ニ接受セルカ右會見ノ際往電第一四三號及第一四四號ノ明令案ハ本官ノ同意ヲ經スシテ發表セサル様又英、米側トノ協定成立スルトモ交換公文ノ發表ハ我方協定成立迄發表見合セ方確ト黄郛ニ伝達スル様申聞ケタル処袁良ハ黄郛ハ日下南京ニ在リテ（黄郛カ袁良同道來滬セルコトハ本官ノ間違ナリキ）南京政府ノ同意ハ金師長（司カ）ラシテ英國公使ニ伝達セシメタルカ英國公使ハ本国政府ノ承認ヲ得次第遲クモ二十日以前ニ英國總領事同伴南京ニ赴キ公文ノ交換ヲ為スコトニ打合済ナルカ黃郛ハ日本ト友好關係モアリ特ニ貴官トハ懇篤ナル間柄ニモアレハ貴官ノ御希望ニハ應諾セラルヘシト存スルモ英國側トノ打合ノ次第モアレハ明十六日持參スヘキ修正公文案三對スル日本政府ノ御回答ハ折返シ南京ニ於テ受領致度シト對スル日本政府ノ御回答ハ右様切迫セル狀況ニ付其ノ御含ニテ御回訓ヘタリ就テハ右様切迫セル狀況ニ付其ノ御含ニテ御回訓方御詮議ヲ仰ク尚黃郛ハ財政部ニ對シ各國ニ對スル第一回

賠償準備ノ為二十万弗用意方ヲ求メ承認ヲ得タリト袁良ハ付言セリ

478 昭和3年3月(16)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉経過に関する英國代理公使の説明について

北京 発  
本省 3月16日前着

\*  
第三三三号  
(四六八文書)  
往電第三〇九号ニ閲シ

十五日英國代理公使ノ請求ニ依リ當館ニ於テ日英米仏伊國會議開催同代理公使ヨリ「ランプソン」ノ電訓ニ基キ昨年四月以来ノ南京事件ニ閲スル交渉ノ概要ヲ述ヘ「ランプソン」カ福州寄港中南京政府ヨリ申出アリ上海ニ到着後南京当局ト商議シタル結果本件ニ閲スル交換公文处罚及将来ノ保障等ニ閲スル付属文書ハ最終議定書等纏リタリトテ之ヲ朗読シタル上右ニ付テハ目下英國政府ノ承認ヲ求メツツアリ同政府ヨリ承認ノ電報接到スル上ハ直ニ調印ノ運ニ至ル

次第ナルカ只支那側ニテハ支那側ノ賠償委員会ニ対スル訓令案ノミハ未タ南京政府ノ承認シ得サル処ナリト説明シタルニ付本使ハ支那側ノ公文中不平等条約ノ改正云々ノ項ニ今後新時代ニ入ルヘキ旨ノ文句アル処右ハ南京事件結了ノ上ハ英國ハ南京政府ヲ承認スル意味ト解シ得ヘキヤト尋ネタルニ同代理公使ハ右ニ対スル英國側ノ公文ヲ朗読シタル後右ハ要スルニ今後ノ発展如何ニ依ルト説明シタリ尚本使ヨリ右書類各写分与方ヲ依頼シタル処同代理公使ハ鮮カラス躊躇ノ後結局明日四国公使ニ送付スヘキ旨ヲ約束シタリ國總領事「ヒュウレット」ヲ帶同シテ南京ニ乗込ム筈ノ由又右会合ニ於テ同代理公使ハ本件ニ閲スル日本側トノ交渉ニ対スル日本政府ノ態度ヲ尋ネタル故本使ハ未タ承知セスト答ヘ置キタリ右ハ日本ノ交渉ノ顛末ヲ話ス時ハ今後交渉ニ或ハ支障ヲ来ス惧アルノミナラス英國側ハ日本側ニ無断ニテ交渉ヲ進メタル關係モアリ日本モ或程度迄ハ秘密ニ交渉ヲ進ムル方好都合カト思考シタルニ依ル

479 昭和3年3月16日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件英中交渉の状況に関する英國總領事の談話について

上海 3月16日後発  
本省 3月17日前着

\*  
第一五五号  
(四七七文書)  
往電第一五一号ニ閲シ

ト答ヘタルニ付本官ハ袁良ノ言ニ依レハ貴下ハ近日公使ニ随伴シテ南京ニ赴キ公文交換ヲナスコトトナリ居レリトノ事ナルカ事實ナリヤ

今朝ノ支那新聞ニハ明日出発ノ予定ナリト報シ居レリト質問シタルニ実ハ未タ本国政府ノ承認ヲ得ス本国政府ハ南京砲撃ニ閲シ陳謝スルコトヲ喜ハサルカ如ク質問シ来レリト述ヘタルニ付質問ハ夫レ丈ナリヤト更ニ突込ミタルニ外ニ賠償ニ閲スル点不平等条約云々ノ一節ニ対スル回答文ニ閲スル点都合三点ナリ折返シ説明シ置キタレハ一両日中ニ何トカ回訓アルヘント云ヘルニ付仮令本国政府ノ承認來ルモ南京政府ヨリ異存ナキ旨ノ返事無ケレハ南京行ハ実現セサル次ナリヤ袁良ハ二十日以前ニ南京ニ英國公使一行ヲ歓迎スルコトトナリ居レリヤト述ヘタルニ二十日ハ何曜日ニ当ルヤト衣囊ヨリ日記帳ヲ取出シテ日取リヲ調ヘ等シテ曖昧ニ言葉ヲ濁シタルヲ以テ本官モ強テ追及セサリキ右会見ノ印象ニ依レハ英國總領事ハ本国政府ノ承認手間取リタルヲ以テ其間日本側ニテ話ヲ進メラレハセスヤトノ懸念ヨリ探リニ來レルモノト察セラレタリ

555

昭和3年3月16日 在上海矢田總領事より

田中外務大臣宛(電報)

## 日本側南京事件解決案に対する黄外交部長の

## 対応について

第一五八号  
十六日午後二時袁良來訪シ昨日ノ御話ノ要領ヲ黄部長ニ打電シタルニ今朝返電ニ接セリトテ長文ノ電報ヲ示セリ右ニ依レハ黄鄂ハ

(一) 国民政府外交部長ノ名ニ於テ深甚ナル陳謝ノ意ヲ表示シタル上更ニ日本領事ヲ往訪陳謝スルハ二重ニ陳謝スルモノトシテ日本政府ノ要求スル理由ヲ解シ難シ

(二) 公文ノ付属ニ処罰令ヲ付スル件林祖涵ノ捜査命令ヲ公文中ニ記載スル件ハ「何月何日発布ノ何々ノ明令」ト公文中ニ引用スル事ト致シタシ日本政府ハ未タ前記兩明令案ヲ読マサル中ニ訓令ヲ発電シタルモノナルヘケレハ此ノ点ハ再考ヲ仰クモ左シテ異存無カルヘシト信ス但右兩明令ノ発表ハ公文ト同時ニスル事ニ致スヘシ更ニ自分

(黄)ハ仮令一両日中ニ英國領事ニ於テ本国政府ノ承認ヲ得ルモ日支間ノ交渉纏マル迄ハ英支間ノ公文發表モ待タセル事トスヘキニ付其ノ点御諒察請フ  
(三) 賠償ノ件ハ両国云々ノ一句削除ハ異存ナキモ其ノ代リ英米宛ノ如ク國際法ノ原則ニ依リ云々ノ文字ヲ加ヘタシ何トナレハ對内關係上南京政府ハ國際法上ノ原則ニ依リ當然ノ義務トンテ賠償スルモノニンテ軟弱ナル外交政策若ハ不平等ナル立場ヨリ列國ニ對シ賠償ヲ余儀ナクサルル次第ニ非サル旨ヲ明記スル必要アルカ為ナリ

(四) 不平等條約云々ノ一件ハ「不平等」ナル文字ハ削ル

ヘキモ全部削除ハ自分(黄)ノ立場ヲ困難ナラシム第一本件解決ノ結果南京政府ハ巨額ノ支払ヲ余儀ナクセラレ人民ノ負担ヲ加重セサルヘカラス從テ他方ニ人民ニ対シ何等カ光明希望ヲ与ヘサレハ南京政府ノ信望ニ關係スル處重大ナリ(現ニ執行委員中南京政府トシテハ今日急ニ南京事件ヲ解決シテ負担ヲ増ス必要ナシトノ反対論アリ何香凝ノ如キ其ノ一人ナリト袁ハ説明セリ)且英米トノ公文ニ明記アリテ日支ノ公文ニナキトキハ外間ニ異様ノ感ヲ与ヘシメ日本政府ハ不平等條約ト南京事件ト關係ナ

シト云ハルルモ不平等條約アルカ為ニ共産党ハ之ヲ利用シテ排外煽動ヲ為シ其ノ結果南京事件ヲ惹起シタルモノナレハ間接ニ不平等条約ハ南京事件ノ原因ナリト云ヒ得ヘシ実ハ打開ケテ申セハ自分ハ此ノ一節ヲ以テ反対派ヲ押ヘ同時ニ人民ノ反対氣勢ヲ殺カムト企テ居ルナリ  
依テ本官ハ夫レテハ話ハ逆戻リナリトテ一々反駁ヲ加ヘ討議ヲ尽シタルカ袁ハ頻リニ英國公使ハ十九日ニハ南京ニ向ケ出發スヘシト述ヘテ日本側ノ交渉促進ヲ説キ自ラ作リタル修正案ヲ提出シタルニ付一応研究ノ上返事スヘキニ付南京行ハ延期サレ度ント述ヘ袁ヲ一ト先引取ラセタリ

二、右原案中ノ保障処罰ノ項ニ於テ「第十九師ノ」ノ文字ヲ削除シ「懲弁シタル事モ」ノ代リニ「懲弁シ右ハ 年月 日国民政府ノ發布セル二個ノ明令ニ徵シ完全ニ明瞭ナルヘキ事ヲ」トスル事

(右十九師ノ削除ハ内政上特ニ參加軍隊名ヲ明示スル事ハ面白カラサルニ付唯「參加シタル軍隊」ニテ我慢願ヒ度シト云フニ基ク又二個ノ明令トハ往電第一四三号及第一四五号ノ明令案ヲ指スモノニシテ右ハ公文ト同日付ニ發表セラルモノナレハ公文中ニ其ノ内容ヲ繰返ス必要

示について  
南京事件解決に関する中国側提案への対案提

481 昭和3年3月17日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

本省 3月17日前着

\*第一五九号  
往電第一五八号末尾ニ関シ

ナシト主張セルニ依ル)

南京事件解決文書中、不平等条約改訂問題に  
関する条項削除方について

三、損害賠償ノ項中両國ノ友誼云々ノ文句ヲ其儘残スカ又

ハ英米ナミニ國際公法云々ノ文字ニ更ユルカハ日本政府

ノ採扱ニ一任スル事

四、不平等条約改訂ノ一節ハ黃郛ノ示セル誠意ト其内情ヲ

酌量シテ之ヲ左記ノ条件ニテ復活セシム

イ、原案中ヨリ其全文ヲ削除シ別ニ左ノ通修正セル文章ニテ照会スルコト

今ヤ南京事件ハ既ニ解決セルヲ以テ本外交部長ハ貴我両国ノ外交關係上ニ一新紀元ヲ開クト同時ニ中外各国ノ友誼ヲ破壊スヘキ煽動者ノロ実ヲ除去セムカ為貴国政府ニ於テ速ニ法ヲ設ケテ平等及領土主権ノ相互尊重ヲ基礎トシ現行各条約ノ改訂並ニ各種懸案ノ解決ヲ計ラレム事ヲ希望ス

ロ、右ニ対シ日本總領事ヨリ外務大臣ノ対支政策ノ声明ヲ引用シ適當ノ辞令ニ於テ回答スルコト

482 昭和3年3月17日 田中外務大臣より  
在上海矢田總領事宛（電報）

483 昭和3年3月17日 在上海矢田總領事宛（電報）

点ノ説明ヲ求メラレ度シ

昭和3年3月17日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件に関する国民政府の処罰・禁令発表

の経緯につき袁良の釈明について

上海 3月17日後発  
本省 3月18日前着

\* 第一六一號  
往電第一五八號ニ關シ  
(四八〇文書)

处罚並ニ禁令ノ発表ハ公文発表ト同時ナルヘキ旨袁良ニ對

シ当初ヨリ念ヲ押シ袁モ黃郛ニ取次キ右明令ノ発表ノミナ

ラス英支両國間ノ交渉纏ルトモ我方交渉成立迄発表ヲ見合

ス旨十六日袁自ラ本官ニ言明シタル次第ハ往電第一五八號

ノ通ナル處十七日朝ノ支那新聞ハ屢次ノ約束声明ヲ無視シ

ニ他方英國總領事ニ電話シテ右発表ハ貴方ト支那側トノ打合セニ基キタルモノナリヤト質問シタルニ決シテ然ラス唯

\* 第三九号  
貴電第一五九号四ニ閲シ  
(四八一文書)

本省 3月17日後7時40分発

「不平等条約」ナル文字ハ削除セラレタルモ本案ハ全体ト

シテ南京政府承認ノ問題ヲ「インヴォルヴ」シ居ルカ如ク

支那側ニ於テ頑強ニ本件ヲ主張スルモ南京事件解決ヲ餌ニ

一種ノ承認ヲ贏チ得ムトル魂胆ナルヤノ疑有リ從テ本件ハ輕々ニ讓歩シ難キ儀ト思考セラルル处在支公使発本大臣宛電報第三三八号ノ如ク英國トノ交渉モ行惱ミタリトセハ

此ノ機会此ノ項削除方今一応強ク主張セラル様致度シ（貴電第一三四四号ノ六英國側ニ對スル文書ノ中國民政府ノ希望ニ關スル部分ノ文句ハ其後今回我方ニ提議シ來リタルモノト殆ント同様ノ文句ニ改定セラレタルニ拘ラス前記芳沢公使來電第三三八号所載ノ如ク英國政府ノ満足ヲ得能ハサリシモノノ如シ貴官限リノ極秘情報トシテ申添ニ）

尚十六日南京発連合ニヨレハ南京政府ハ既ニ外人保護令及犯人逮捕令ヲ発表シタル由ナルニ付袁良ニ対シ同時ニ此ノ

英國側ニテハ右二明令ノ発表ハ交換公文発表ヨリ遅ルル事アルヘカラスト主張シ支那側ノ同意ヲ得居レルノミト答ヘ次テ米國總領事ニ注意シタルニ同總領事ハ果シテ然ルカト慨歎シ唯今夏師長ト南京事件ニ付会見中ナレハ詰問スヘシト答ヘタリ次テ草野ノ報告ニ依レハ袁良ハ頗ル恐縮ノ態ニテ実ハ今朝ノ新聞ニテ吃驚シ北停車場ニ黃郛出迎ニ赴キ発表ノ理由ヲ質問シタル處黃郛ハ本件交渉ノ経緯ヲ十四日ノ中央政治理會議ニ報告シタル處例ノ何香凝一派ノ解決不要論猛烈ニテ黃郛、譚延闔、蔡元培等之ヲ論駁スルニ苦心シ遂ニ何香凝ハ若シ国民政府ニ不利ナル条件ニテ解決セル事明白トナリタル時ハ仮令逮捕令ヲ出サルルトモ全國ニ反対通電ヲ發スヘシ團匪賠償ノ先轍ヲ履ムカ如クムハ革命ノ精神何レニアリヤトテ激昂ノ結果泣き出シ手カ付ケラレス遂ニ蔣介石立チテ北伐完成ニ際シ諸外國トノ外交關係ヲ改善スル事ノ必要ナル所以ヲ力説シ何ヲ有メテ退場セシメ蔣介石、譚延闔、蔡元培及黃郛ノ四名ヲ起草委員ニ挙ヶ全責任ヲ負ハシムル事トナリテ漸ク通過中央執行委員会ニ回付シタル処

十五日右執行委員会ニ於テ何香凝等又復反対セルモ之亦將

介石ニ於テ押ヘ付ケ十六日ノ国民政府委員会議ニ付議セシ  
ムルコトトナレルニ付右政府会議ニ於テ于右仁等ヨリ之力  
修正ヲ提議シタルヲ以テ主席譚延闡ハ形勢ノ不穏ナルヲ認  
メ既ニ政治会議ニ於テ四名ノ責任起草委員ヲ挙ケタリトノ  
理由ヲ以テ他ノ委員ニ之カ修正權無シトノ前例ヲ破リタル  
断案ヲ下シテ発言ヲ禁シ一瀉千里ニ議決發表セルモノナリ

即チ右禁令ノ發表ニ依リ国民政府ヲ拘束ン交渉速行ヲ余儀

無クセシメタルモノニシテ黄郛モ貴方ニ対シ面目ヲ失シタ  
レトモ黄ノ地位ハ他ノ国民党ノ領袖ト異ナリ夫迄ハ勢力及  
難カリシ次第ナリ不信ノ議ハ甘受スヘキモ事情御諒察ヲ乞  
ヒ度ク黄郛ノ命ニテ之ヨリ説明ノ為參上セントセシ処ナリ  
ト述ヘタリ尚黄郛ハ第四次全体会議以後国民政府ノ政治的  
中心ハ蔣介石ニテ曩ニ蔣ハ何香凝等広東派委員ヲ庇ヒタル  
次第モアルニ付遂ニ彼等ノ議論ヲ押ヘ付クルコトヲ得ルモ  
蔣ハ数日中ニハ總攻撃開始ノ為前線ニ赴クヘク蔣不在ナレ  
ハ中心ヲ欠キ内部ノ纏メサレハ或ハ解決ノ見込無カルヘシ云々ト  
袁良ニ漏ラシタリトノコトナリ

大体ノ交渉ヲ纏メサレハ或ハ解決ノ見込無カルヘシ云々ト  
袁良ニ漏ラシタリトノコトナリ

\* 第三五号  
南京 本省 3月18日前着  
国民政府ハ昨十六日付ヲ以テ林祖涵ノ逮捕令ヲ出セルカ其  
ノ要旨左ノ如シ

客年三月革命軍南京ヲ攻略シ秩序混乱セル際共産党ノ煽動  
ニ依リ一部軍隊及ヒ無賴ノ徒各国領事館及ヒ居留民ヲ略奪  
セシハ痛恨ニ堪ヘ斯當時暴兵十九名及ヒ無賴漢三十二名ヲ  
銃殺ニ處シ其ノ後林祖涵ニ対シ逮捕令ヲ下セルモ未タ之カ  
逮捕ヲ見ス各軍民長官ハ更ニ敵命ヲ下シ同人並ニ其ノ他ノ  
犯人ヲ逮捕スヘシ

又国民政府カ同日付ヲ以テ發布セル外国居留民保護令大要  
左ノ如シ

外国人ノ生命財産ヲ保護スルハ國家当然ノ職責ナリ現今秩  
序安泰シタリト云フモ尚一二ノ不良分子煽動セサルヲ保シ

難シ各軍民長官ハ敵命ヲ下シテ之等ヲ逮捕シ事件ノ勃発セ  
サル様注意シ内外人同然安樂ニ事務ニ精励セシムヘシ  
~~~~~  
485 昭和3年3月18日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)
南京事件解決文書中不平等条約条項削除問題
について

上海 3月18日前發

本省 3月18日後着

貴電第一六二号
(四八二文書)

ニ閔シ

十七日夜黄郛ハ袁良ヲ本官ノ許ニ遣ハシ南京政府内状ノ紛

糾セル次第ヲ述ヘテ英米ニ同意シタルニ付往電第一五九号

打合案中(一)命令ノ日付ヲ取ル事(二)条約改訂ノ件ハ

訂正セル辞句ヲ以テ原案ニ復活セシムル事即チ分離セシメ

サル事ノニ修アリタキ旨申出タルニ付再三ノ修正ハ事
態ヲ紛糾セシムルヲ以テ往電第一五九号ニ対スル回訓ヲ待
事然ルヘキ旨申聞ケ本省ヘノ稟請ヲ拒絶シ置ケリ然ルニ
御訓令ニ依レハ当初ノ主張タル全部削除ヲ支持セラルル次

* 第一六三号
(四八二文書)
往電第一六一號ニ閔シ
上海 3月18日前後發
本省 3月19日前着
南京事件は讓歩の上早期解決を得策とする旨
意見具申

上海 3月18日前發

田中外務大臣宛(電報)

南京事件は讓歩の上早期解決を得策とする旨
意見具申

上海 3月18日前後發

本省 3月19日前着

貴電第一六二号
(四八三文書)

ニ閔シ

黄郛ノ弁明カ満更根拠無キ事ニ非サルヘキハ前後ノ状況
(黄郛ニ反感ヲ有スル「ソコロスキ」)ハ十七日朝本官ニ
対シ今回交渉ノ急激進捗セルハ遠キ問題ニテ地位不安定ナ
ル「ランブソン」カ其ノ地位ヲ確保セントスル野心ト黄郛

ノ同様ノ野心ト合致シタル結果ニシテ国民党中之ヲ喜ハサルモノ有リ交渉ノ結果如何ニ依リテハ浙江閥征伐ノ材料タルヘク蔣介石ノ地位モ此處三ヶ月位ナルヘシト語レリ)殊ニ十六日蔣カ何香凝等ノ反対論ヲ封スル為中央會議ヲシテ本件解決ニ関スル二個ノ原則一、如何ナル条約ノ拘束ヲモ受ケサル事二、平等ノ精神ヲ以テ自發的態度ニテ解決スル事並ニ黃郛ニ全權ヲ委任スル事ヲ議決發表セシメタル事實ニ微シ明カナルカ何レニセヨ支那側不信ノ措置ハ既ニ後ノ祭ニテ此ノ上追究スルモ詮方無キ处他方英米交渉ノ現状ハ左ノ通ナリ

即チ一、英國ハ御承知ノ通本国政府カ修正ヲ命スルカ又ハ公使ノ説明ニ満足シテ其儘承認ヲ与フルカヲ待チツツ有リ若シ前者ナラハ交渉ハ多少手間取ルヘキモ英國公使ハ行懸上無理ニモ解決ヲ計ルヘク後者ナラハ即時公文ノ交換トナルヘシ其ノ間日本側ニ先ヲ越サルル事ヲ焦慮シツツアルハ英國總領事カ其ノ後モ頻リニ我方交渉ノ模様ヲ問合セ来ル事ニ依ルモ明白ナリ

二、米国ハ同總領事カ本官ニ對シ自分ハ将来ノ保障ニ關シ最モ有利ナル条件ヲ取り付ケタリト自慢セルニ付十七日午

*
第四号
貴電(四八五文書)

本省 3月19日後6時発

貴電(四八五文書)

南京事件ノ如キ不愉快ナル事件ヲ成ルヘク速カニ解決セムコトハ當方ノ最モ希望スル所ナルヲ以テ本件自体ニツイテハ出来得ル限り讓歩シ程潛处罚ニ付テモ強テ主張セス謝罪ノ点ニ付テモ最大ノ讓歩ヲ為シテ本件ノ解決ヲ促進セムトシツツアル次第ナルモ本件ノ解決ト全然別個ノ問題タルヘキ

昭和3年3月20日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)
袁良に対し北伐完成のためにも南京事件の早

期解決を黃郛に伝達方依頼について

上 海 3月20日前発
本省 3月20日後着

*
第一六四号
往電(四八五文書)

黃郛ノ申出ヲ拒絶セル理由トシテ本官ハ袁良ニ對シ南京政

府ノ立場ヨリ觀テ現下ニ於ケル重大ナル問題ハ北伐ノ完成テハ我方ニ於テハ此ノ際本件ノ解決ヲ為スヲ要セス仮令英米カ南京政府側ノ主張ニ讓歩シテ解決スルトモ我方トシテハ必スシモ之ニ追随スルノ要ナシト思考スルニ付右様御承知アリ度シ若シ先方ニシテ條約改訂ニ關スル點ヲ断念スルニ於テハ貴電(四八五文書)第一五九号中謝罪ノ点ニ付テハ單ニ文書ニ依ル謝罪ニテ満足スヘキニ付賠償ノ項ニ關スル文句ハ英國ト同シク「國際法云々」ト改メシメ又命令ノ日付之レヲ取リ(貴電第一六二号)適宜公文ノ交換ヲ行ハレ差支ナシ

後五時往訪シ其ノ草案ヲ一読シタルニ往電(四八五文書)第一五八号末段袁良ノ本官ニ提出シ不満足トシテ退ケラレシモノト同文(英支兩文ノ差ハ有レト)ナリ同總領事ハ其ノ際命令ノ發表ニ付何司長ハ南京政府カ自發的ニスルトノ方針ヲ明カニスル為ナリト説明セルカ夫ナラハ強ヒテ咎ムル程ノ事モ無カルヘシト語リ之レ亦英國ニ追従シ都合好クハ英米両公使相前後シテ南京訪問トナルヘシト予想セラル從テ我国トシテハ依然トシテ英國並ニ讓歩シテモ本件ヲ至急解決スヘキカ又ハ独自ノ方針ヲ取り焦ラス騒カス他日ノ機会ヲ待ツヘキカ其ノ一ヲ選フヘキ立場ヲ脱却セサル次第ナリ本官ハ我國ノミ残サルル事ハ即チ当分解決ノ希望ヲ拠棄スルモノナリトノ見解ヲ持スルカ故ニ寧ロ英國ノ停頓ヲ幸大抵ノ処ニテ折合ヒ我ニ於テ南京事件ノ解決ヲ「リード」スル事得策ナリト思考ス

*
487 昭和3年3月19日 在上海矢田總領事宛(電報)
袁良に対し北伐完成のためにも南京事件を解決

することは不必要的旨回訓

意ヲ示スヘキ第一義ニ非スヤ此ノ点英米ノ立場ト我国トハ

全然異ナル從テ日本ハ独自ノ見地ヨリ本件ヲ処理スヘク貴方ニ於テモ其ノ考ニテ交渉ヲ進メラレ度シ條約改正ノ項

ニ閔スル日本政府ノ主張強硬ナレハ貴方ニテ讓歩セサレハ

或ハ交渉ハ打切りトナルヤモ計ラレス聰明ナル黃郛氏カ北

伐ヲ目前ニ控ヘテ日本トノ交渉断絶ニ依リテ蒙ル南京政府

ノ損害ニ思ヒ及ハサル筈ナシト信スル旨同夜黃郛ニ伝達方

依頼シタルニ袁ハ直ニ電話ニテ黃ノ都合ヲ聞キタルニ黃ハ

心身共ニ疲レ静養シタント断リタルニ拘ラス英國總領事公

使ト共ニ押シ掛け來リ目下面会中ナリトノ事ナリシカ十八

日朝迄ニハ黃ニ伝達ヲ約シ引取リタリ其ノ後袁トノ会見モ

ナク本官ハ右ニ対スル黃ノ返事ヲ待チツツアル際貴電

(四八七文書)

第四一号御訓令接到セルニ付黃郛ニ面会ヲ求メ二十日夜会見スル事ニ打合済ミ其ノ結果追報ス可シ

489 昭和3年3月20日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

南京事件交渉における不平等条約改訂問題削除は困難との黄郛の意向について

第一六七号
往電(四八八文書)第一六四号ニ閔シ

二十日本官黃郛ニ面会シ貴電第四一号御訓ノ次第ヲ申聞

ケタルニ黃郛ハ甚タシク失望セル顏色ニテ種々内状ヲ語レ

ルカ其ノ中ノ要点ハ

一、英國トノ交渉ハ十七日夜ノ英國公使トノ会見ニ於テ英

国側ノ主張シタルハ賠償ニ閔シ(イ)第一次資金(イニ

シヤル、ファンド)ハ五國ヲ通シテ二十万弗ニテハ余リ

ニ少額ナレハ英國丈ニ対シ百万弗ヲ支出スル事(ロ)賠

償ノ支払保障ノ方法ヲ講スル事(ハ)英支間ノ賠償額査

定ニ付争ヒ生ジタル場合ノ仲裁方法ヲ予メ協定シ置ク事

ノ三点ヲ主張シ長時間議論ノ結果(イ)ニ付テハ二十万

弗ノ外ニ英國ノミニ対シ十五万弗ヲ用意スル事(ロ)ノ

保障ハ今日ノ時勢ニ於テハ善後借款ニ付テ塩税ヲ担保ト

スルカ如キ方法ハ実行不可能ナリトシテ拒绝セリ(ハ)

仲裁ハ五国以外ノ第三國ヲ双方同意ノ上指定スルニ異議

無キ事ニ話合付キタリ(以上ハ英國側ノ堅キ約束アリト

次官ヲ來訪シタル際最近北京上海方面ヨリ受取りタル電報ニ依レハ「ランプソン」ト南京政府トノ南京事件ニ閔スル交渉大分進行シタル模様ナルモ本國政府ニ於テハ不平等条約ニ閔スル点及南京砲撃ニ閔スル点ニ付多少不満足ナルモノノ如ク今以テ「ランプソン」ニ対シ南京事件解決ニ閔スル承認ヲ与ヘサルモノノ如シト述ヘ日本側ノ交渉進行ノ模様如何ト尋ネタルニ付次官ヨリ「ランプソン」ト南京政府トノ交渉ノ模様ハ上海及北京ニ於テ英國側ヨリ日本側ニ隨時内報セラレタル所アリ其ノ経過ノ模様ヲ承知スルコトヲ得満足ニ思料シ居ル旨一応ノ挨拶ヲ為シタル上日本政府トシテハ南京事件其ノモノノ解決ニ付テハ必シモ苛酷ナル態度ニ出テントスル考無ク寧ロ孰レカト言ヘハ此ノ機会ニ於テ相当満足ナル条件ノ下ニ此ノ不愉快ナル事件ヲ一掃スルコト得策ナリト認メ居ルモ支那側ニ於テハ同時ニ南京事件其ノモノト全ク関係無キ不平等条約撤廃ニ閔スル条件ヲ持出シ居リ右ハ当初漢口ニ於テ陳友仁ヨリ申出テタル形式ニ比シ著ク緩和セラレ居ルニセヨ此ノ際斯カル問題ニ付支那側ノ申分ヲ取上クルカ如キハ其ノ形式ノ如何ヲ問ハス甚

タ面白カラサル儀ト思料シ不平等条約ニ閔スル点ハ形式ノ
昭和三年三月二十二日英國代理大使「ドーマー」氏出淵
昭和3年3月22日 出淵外務次官
ドーマー英國臨時代理大使会談
南京事件解消交渉の現状に關し会談について

*南京事件ニ閔シ英國代理大使ト会談ノ件

如何ヲ問ハス断然排斥スヘキ旨矢田総領事ニ訓令ヲ発シア
ルコトヲ告ケ我方ノ強キ意見ヲ代理大使ノ頭ニ容レタル上
尚日本側トシテハ南京事件ハ成ル可ク今日ノ如キ機会ニ於
テ解决致度シト考フルモ右ハ必シモ絶対ニ解决セサルヘ
カラサル必要ニモ迫ラレ居ラサルノミナラス又必シモ之
ヲ取急キ解决スル必要ヲ認メ居ラス要ハ支那側ノ態度出方
ニ応シ適宜應酬スル積リナリト告ケ置キタリ

~~~~~

491 昭和3年3月22日 在上海矢田総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件解决交渉より不平等条約改訂問題削除につき再考慮の必要ある旨意見具申

上海市 3月22日前着 発  
本省 3月22日前着

第一七一号  
貴電第四一四号ニ閲シ

条約改正ノ希望条項挿入ノ好マシカラサル理由ハ

一、南京事件ト無関係不必要ナルコト

二、南京政府ノ承認ヲ贏得ントスル魂胆ナル疑アルコト

三、英國政府ノ反対意見カ如何ナルモノナルヤハ固ヨリ不明ナルモ本条項ハ王寵惠「ランプソン」ノ覚書ニモ伍朝枢ノ提案等ニモアリテ初メテ提議サレタル次第ニアラサルヲ以テ英國公使ハ英國政府トノ間ニ此点ニ閲シテハ既求スルナラハ事実ニ反スルヲ以テ之ヲ拒絶スルニ何等考慮ヲ要セサルヘシ

三、英國政府モ反対意見ヲ有ストノ情報アリ英支間ニモ必  
スシモ此条項成立セサルヘキコト  
四、英支間ノ今次ノ交渉ノ成否疑アリ我方トシテ進ンテ此  
ノ点ニテ讓歩スル必要ナカルヘシ  
トノ四点ニ歸着スル様存セラルル処

一、本条項カ南京事件ト関係アリヤ否ヤハ之ヲ政治的社會的ニ觀察スルヤ又ハ法律的ニ事件其ノモノノミヲ觀察スルヤノ差異ニシテ要スルニ見方ノ相違ナルヘク

二、南京政府ノ承認ヲ得ントスル魂胆カモ計ラレサレトモ南京事件解决センカ右条項ノ有無ニ拘ラス承認問題ハ提起サルルナルヘシ現ニ各國政府ハ南京政府ヲ事實上ノ地方権力者トシテノ承認ヲ与ヘ交渉シツタル次第ナレハ南京政府カ支那全体ノ代表的統一政府トシテノ承認ヲ要求スルナラハ事実ニ反スルヲ以テ之ヲ拒絶スルニ何等考慮ヲ要セサルヘシ

放棄スルコトハ得策ナラサルヤニ思考セラル

492 昭和3年3月22日 在上海矢田総領事より

田中外務大臣宛(電報)

南京事件解决条件に関する英國の態度について

て

上海 3月22日後発  
本省 3月23日前着

第一七五号

往電第一六九号ニ閲シ

二、今次英支交渉ノ成否ハ多少疑ハルル点無キニ非サルモ  
兩三日前英國總領事カ本官ニ対シ話ノ序テニ英國ハ南京  
ニ大商社アレハ其損害ノ申告ハ莫大ナルモノアレトモ之  
ヲ最小限ニ削減スル方針ナリト述ヘタルニ付全額何程ナ  
リヤト切込ミタルニ暫ク考ヘタル上三百万弗位ナルヘント  
答ヘタルコトアリ斯ク賠償金ニ付テモ永久放棄スルヨ  
リ小額ニテモ取レル内ニ取り置クヘシトノ方針ナリトス  
レハ交渉ハ案外スラスト取運フヤモ計リ難シ又若シ英  
支交渉ノ成立シ日本ノミ不調ニ終ル場合ニハ南京政府ハ  
解決条件發表ト共ニ日支交渉ノ経過ヲモ發表シ談判不調  
ノ責任ヲ日本側ニ嫁シ日本政府ハ條約改正ニ閲スル支那  
国民ノ希望ニ対シ同情ヲ有スル旨表示スルコトヲ拒絶シ  
タリト宣伝スルナルヘク旁々此ノ条項ノミヲ以テ解決シ

尚本日午後米國總領事ニ何等發展アリシヤト問合セタル処  
側ノ最希望セサル処ナリト語レリ

未タ華盛頓ヨリ何等訓令ナシ米国公使ハ来ル二十五日上流ヨリ上海着ノ予定ナリ云々ト語レリ

~~~~~

493 昭和3年3月23日 田中外務大臣より
在英國松井大使宛（電報）

本省 3月23日後6時40分発

*南京事件解決交渉の経過通報について

南京事件交渉ハ客年往電合第一九一号以来停頓シ居タル処

本年二月二十三日南京政府外交部長黃郛ヨリ上海矢田總領事ニ対シ本件解決ノ希望申出アリタルニ依リ之ヲ機会ニ同総領事ハ予ネテノ訓令ニ基キ我方ノ解決案（客年往電合第一九二号支那側案ニ修正ヲ加ヘ且同案末項条約改訂ノ点ヲ削除セルモノ）ノ趣旨ヲ伝ヘタルニ黃郛ハ三月五日袁良ヲ矢田總領事ノ許ニ遣ハシ外交部長公文案ヲ骨子トスル解決草案ヲ提出シタルカ要領左ノ如シ

イ、謝罪ハ右公文中ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スル形式トスルコト

ロ、処罰及将来ノ保障ニ付テハ事件ニ参加シタル軍隊ハ既ニ解散シ事件関係者ハ既ニ法ニ依リ懲弁シタル旨並国民政府ハ軍民長官ニ通令シテ在留日本人ノ生命財産ヲ切実保護シ居リ殊ニ現ニ共産党ヲ驅逐シタルニ依リ南京事件類似ノ事件再発ノ憂ナキ旨ヲ右公文中ニ記載スルコト但シ軍民程潜ノ処罰ヲ含マス

ハ、南京領事館及在留日本人ノ受ケタル損害ヲ賠償スルコト之カ為日支調査委員会ヲ組織スルコト

ニ、右公文中ニ於テ不平等条約改訂ニ關スル希望ヲ表明スルコト

右ハ我方ノ要求ト尚相当ノ懸隔アルモ現在ノ南京政府ヲシテ此ノ際本件ヲ解決セシムルコト大局上得策ナリト認メラレ又英國側ニ於テハ同國公使南支旅行ノ途次上海ニ於テ本件交渉ヲ進メ解決ヲ急キ居ル模様アリ旁々我方トシテモ大体支那側ノ案ヲ認メ謝罪モ文書ニ依ル陳謝ヲ以テ満足シ又程潜ノ処罰モ此ノ際南京政府ニ対シテハ強テ主張セサルコトトシ此ノ方針ノ下ニ数次矢田總領事ヲシテ交渉セシメタル結果支那側ニ於テモ前記公文案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ处罚及保障ニ付テハ南京政府ヨリ自發的ニ外人保護令及林祖涵

ト

等ノ逮捕処罰令ヲ発シ之ヲ右公文中ニ引用スルコトシ其ノ他ノ諸点ニ大体我方ノ同意シ得ル程度ニ落合ヒタリ唯前記（ニ）不平等条約ノ点ニ付テハ支那側ハ内政上人心一新ノ政治的意義ヲ付シ居ル次第ナレハ文句ハ出来得ル限り緩和スヘキモ本項全部ノ削除ハ對内關係上不可能ナリトテ之

カ削除ヲ承知セス上記ノ如ク南京事件自体ノ解決ニツキテハ我方トシテ出来ウル限リノ讓歩ヲ為スニ答ナラサルモ本

項ノ如キ南京事件トハ何等ノ關係無キ問題ヲ本件解決ニ結付ケムトスルハ頗ル当ヲ得サルノミナラス其ノ文句等ヨリ見テ南京政府承認問題ニモ關係アルヤニモ疑ハレタルニ付支那側カ右ノ点ヲ固執シテ其ノ他ノ点ニ於テ略々一致セル本件ノ解決ヲ欲セサルニ於テハ仮令英米カ支那側ノ主張ニ讓歩シテ解決ヲ為ストモ我方トシテハ此ノ際本件解決ヲ為スヲ要セスト思考シ此ノ趣旨ニテ矢田總領事ヲシテ交渉セシメツツアルモ未タ支那側ノ讓歩ヲ見ス

尙前記南京政府ノ外人保護令及逮捕処罰令ハ交渉成立ヲ俟タス三月十六日自發的ニ発セラレタリ

（在英大使宛ノ分ニハ在欧各大使ニ暗送アリタシト付記スルコト）

494 昭和3年3月23日 田中外務大臣より
在英國松井大使宛（電報）

本省 3月23日後7時発

*合第五五号

（四九三文書）

英國および米仏伊諸国の南京事件交渉の経過

通報について

往電合第五四号ニ關シ

一、本件英國側交渉ハ同國公使南支旅行中三月五日ヨリ上海ニ於テ同公使ト黃郛トノ間ニ行ハレ十一日一段落ヲ告ケタル趣ニテ其ノ解決案ハ陳謝、処罰、保障、賠償等大体我方ト同様ナル外本件解決公文中ニ於テ英國軍艦ノ南京砲擊ニ言及スヘク之ニ對シ英國側ヨリ右ハ英國居留民生命財産ノ保護上已ムヲ得サル措置ナリシ旨ヲ回答シ又條約改訂問題ニ対シテハ一昨年来ノ二回ノ覚書ヲ引用シテ英國政府ノ同情的態度ヲ表明セル回答ヲ与ヘントスルモノナリト云フ右ノ外英國側ハ賠償金支払方法ニ重キヲ置キ年賦払トスル場合ノ第一次支払金額等具体的的事項ニ付交渉ヲ為シタルモ

ノノ如シ英國公使ハ此ノ際本件ヲ解決スルヲ得策ト認メ右ノ程度ニテ本件解決方本国政府ニ稟請シタル由ニテ交渉成立ノ上ハ同公使自身南京駐在総領事ヲ伴ヒ南京ニ赴キ本件公文交換ヲ行フト共ニ同地領事館ヲ再開スル予定ノ趣（我國政府ヨリ砲撃陳謝及条約改訂ノ二項ハ承認シ難キ旨回訓アリタル由ニテ未タ交渉成立ニ至ラス）

二、米国側ニ対シテモ大体同様ノ交渉行ハレ居ルモノノ如ク詳細不明ナルモ未タ本国政府ヨリ回訓ナキ趣ナリ仮伊ニ対シテモ大同小異ノ申出アリタル由ナルモ交渉ハ余り進捗シタリトモ思ハレス

（在英大使宛ノ分ニハ「在欧各大使ヘ暗送アリタシ」ト付記スルコト）

~~~~~

495 昭和3年3月(23)日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

英國においても南京事件解決案中不平等条約  
改訂条項に反対の意向について

（在英大使宛ノ分ニハ「在欧各大使ヘ暗送アリタシ」ト付記スルコト）

~~~~~

496 昭和3年3月(24)日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

英國との南京事件交渉停滞に関する袁良の談

言セリ

話について

南京 発
本省 3月24日前着

*第三八号

二十三日他用ヲ以テ外交部ニ袁良ヲ訪問セル処恰モ英國總領事來訪シ居リタルカ袁ハ英支間交渉ニ付大要左ノ通語レリ

本来今回ノ交渉開始ハ英國公使ヨリ福州官憲ヲ通シテ誠意有ル申出ヲ為シタルニ始マリタル次第ニシテ黃部長英公使累次ノ会見ニ於テ意見一致シ条約改訂問題亦英公使ノ同意ヲ得公使ハ之ヲ其秘書ヲンテ文書ニ認メシメ当方ニ交付セル次第ニシテ英ノ砲撃問題ノ如キ英國側ニ於テ遺憾ノ意ヲ表セサル代リ支那側ノ謝罪ヲモ要求セサル事ニ決シ居リ確実ニ円満解決ヲ見タルモノト信シ英國公使入京ノ際ハ大々的ニ歓迎ヲ為ス事ニ打合セ居リタル処今ニ至リ前言ヲ食シテ苟モ一国ノ公使トシテ不見識極マレリトテ黃部長大ニ憤慨シ急遽帰京セシ次第ナリ然ルニ英公使ハ如何ニカシテ円満解決ヲ為シタシトテ昨夜急行列車ニテ上海駐在総領事

ノノ如シ英國公使ハ此ノ際本件ヲ解決スルヲ得策ト認メ右ノ程度ニテ本件解決方本国政府ニ稟請シタル由ニテ交渉成立ノ上ハ同公使自身南京駐在総領事ヲ伴ヒ南京ニ赴キ本件公文交換ヲ行フト共ニ同地領事館ヲ再開スル予定ノ趣（我國政府ヨリ砲撃陳謝及条約改訂ノ二項ハ承認シ難キ旨回訓アリタル由ニテ未タ交渉成立ニ至ラス）

方ニ於テハ客年十二月下旬南京事件解決ト関係ナク自発的ニ領事ヲ城内ノ原領事館ニ復帰セシメタリ）ナルカ最近英國政府ヨリ砲撃陳謝及条約改訂ノ二項ハ承認シ難キ旨回訓アリタル由ニテ未タ交渉成立ニ至ラス

二十三日英國代理公使ト会見ノ際同代理公使ハ「プライベイト」ニ含ミ置カレタシト前置キシタル後最近「ラムソン」ヨリノ転電ニ依レハ英國政府ハ前回ノ訓令通り依然反対ヲ継続スヘキ旨訓令シ越シタル模様ナリト述ヘタルニ付

本使ハ右ノ反対ハ矢張砲撃及不平等条約改訂ノ二点ナリヤト尋ネタルニ然リト答ヘタルニ付本使ハ条約改訂ニ付テハ日本政府モ南京事件トハ何等関係ナシトノ見地ニテ反対シ居レリト述ヘタル處同代理公使ハ英國政府モ全然之ト同意見ナリト答ヘタル上此ノ上ハ「ラムソン」ニ於テ如何ナル態度ニ出ツルヤ同公使ノ為ス処ヲ観望スルノミナリト付言セリ

~~~~~

北京 本省 3月23日後着 発

往電第三五八号ニ関シ

第三五六号

往電第三五八号ニ関シ

第三五六号

497 昭和3年3月24日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

黄郛より日本との間に南京事件の円満なる解  
決を計りたき旨袁良を通じて申し出について

上 海 3月24日後発  
本 省 3月25日前着

## 第一七九号

三月二十四日袁良來訪南京ヨリ帰来セル趣ヲ述ヘテ交渉ノ  
頓挫ニ関シ大体岡本領事閣下宛電報第三八号ノ趣旨ヲ述ヘ  
此ノ際日支間ニ円満ナル解決ヲ計リ度旨ノ黄郛ノ伝言ヲ述  
ヘタルニ付日支单独交渉ハ今日ニ於テハ英、米ニ対シ氣兼  
スルニ及ハスト存スルモ條約問題ハ到底日本政府ノ同意ヲ  
得ル見込無ク右ノ点ヲ貴方ニ於テ讓歩スレハ我方ノ賠償額  
ハ英、米ノ夫レニ比シ遙ニ小額ニテモアリ本件ニ關スル凡  
テノ問題ヲ即時解決スルコト困難ナラスト認ムル旨ヲ答ヘ  
タル処大体賠償総額ハ幾何ナリヤ自分限リニ承知シ度ト云  
ヘルニ付申告額ハ約三百万弗ナルモ右ハ素ヨリ查定ヲ要ス  
ヘク日本政府トシテハ不当ノ要求額ヲ支持スル考毛頭無シ  
ト述ヘタルニ袁ハ若シ査定額カ例ヘハ數十万弗ナリトスレ

トモ機会有ルコトニ繰返シ之レヲ表明スルニ躊躇セサルコ  
トハ往電第三〇号ノ通リナリト雖元來南京事件ハ革命軍ノ  
犯シタル國際的罪惡ナルコト否定シ難キトコロナルカ故ニ  
之カ解決ニ當リ恰モ交換条件ノ如キ形ニテ條約改訂問題ヲ  
提起スルコトハ本件解決ニ對スル支那側ノ誠意ヲ疑ハシム  
ル所以ナリ從テ條約改訂問題ニ關スル公文ノ交換ハ仮令之  
レヲ南京事件ノ公文ト切離スモ此際之レヲ行フコトハ我方  
ノ到底承認シ得サルトコロナリ

帝国政府ニ於テハ南京政府及黃郛ニ對シ充分ノ同情ヲ有シ  
其ノ健全ナル發達ヲ衷心ヨリ希望シ居ルカ故ニ本件ノ如キ  
不愉快ナル懸案ハ出來得ル限リノ讓歩ヲ為シ以テ急速解決  
ヲ図リツツアル次第ニテ右急速解決ハ南京政府ノ信用ヲ増  
シ基礎ヲ強固ナラシムル上ヨリモ極メ必要ナルコトト信  
スルニ付南京政府ニ於テ其非ヲ非トスル淡泊ナル態度ヲ以  
テ單純ニ南京事件ノミヲ決スルノ態度ニ出テムコトヲ切望  
スル旨篤ト支那側ニ伝ヘ其ノ熟慮ヲ求メラレ度シ  
在支公使及南京領事ニ転電アリ度シ

498 昭和3年3月26日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

本省 3月26日後6時30分発

\* 第五一号  
貴電第三九七号ニ關シ  
南京事件解決に關し條約改訂問題に關する公  
文の交換は承認し得ざる旨回訓

不平等條約改訂問題ニ對スル帝國政府ノ同情的態度ハ今後

499 昭和3年3月26日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

本省 3月26日後着

北京 発

第三七四号

往電第三六五号ニ關シ

尚本使ヨリ二十五日上海発路透電報ニ依レハ今後「バート  
ン」及「ヒュウレット」ニ於テ交渉ヲ繼續スル由ナルカ事  
実ナリヤト尋ネタル處同代理公使ハ先ツ右様ノコトトナル  
ヤモ測リ難キモ委細ハ「ラ」帰任ノ上御聴取アリタシト答  
ヘタリ

二十六日英國代理公使來訪其後英國政府ノ訓令ニ基キテ  
「ランブソン」ヨリ申入レタル結果黃郛ハ砲擊及不平等條  
約問題ヲ記載セサルコトトセハ「ノート」交換ノ必要モナ  
カラムト言フカ如キ態度ニテ「ラ」モ終ニ諦メ二十五日既  
ニ上海ヲ出發シ秦皇島經由二十八日帰燕ノ筈ナル旨内話セ  
リ

ハ日支両國ノ調査委員会ハ單ニ形式ニ止メ即時支払フコト  
ヲ得ヘク唯困難ナルハ條約ニ關スル条項ナルカ支那側ニ於  
テ讓歩シ別ニ公文ヲ交換スルコトトセハ日本政府ハ満足ス  
ルヤト質問セルニ付右ハ貴下ト自分トノ修正案ニテ既ニ政  
府ニ電報シ居レルモ承認ヲ得ルコトハ困難ナルヘシト答ヘ  
訓ヲ得度ント云ヘルニ付之ヲ承諾シ置ケリ察スルニ英支交  
渉ノ頓挫ハ英國公使ノ面目ヲ失墜セシメタルコト勿論ナル  
カ同時ニ黃郛ノ立場ヲ悪クシタルヲ以テ黃郛ハセメテ日支  
間ノ交渉ヲ解決シ其ノ面子ヲ恢復スル希望ト存セラル

500 昭和3年3月27日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

## 南京事件解決交渉に条約改訂を関連せしむる

ことの不承認を中國側に伝達について

上海 3月27日後発  
本省 3月28日前着三月二十七日袁良來訪往電(四九七文書)第一七九号ニ閔スル御回訓ヲ尋ネタルニ付貴電(四九八文書)第五一号御電訓ノ趣旨篤ト申聞ケタル処然

ラハ條約改正ニ閔スル照会文ノ日付ヲ南京事件解決公文ヨリ遅ラシ「今回南京事件解決シタルニ付云々」ノ文句無シテモ不可ナリヤト云ヘルニ付南京政府ハ何故ニ非ヲ非トンテ男ラシク承認シ得サルヤ日付ヲ別ニスルモ同時ニ發表スレハ同シコトナリ夫ニテハ到底本省ノ同意ヲ得ル見込無シト撥付ケタルニ何トカ方法ハ無キモノニヤト助言ヲ求メタルニ付南京事件解決發表サルルヤ我國ニ於テモ必ス右ニ閔スル外務大臣ノ新聞記者ニ対スル談話若ハ「ステートメント」ノ發表アルヘク其ノ際昨年四月声明シタルト同様ノ趣解決スヘシト申出アリタリ

モノナルヘシト答ヘタルニ成程其ノ様ノ事情モアルヘシト首肯シ自分ハ来ル三十一日迄当地ニ在リ其ノ後米支間ニ何等發展アラハ御知ラセスヘシト云ヘリ尚仏國總領事ハ兩三日前本官ヲ來訪シ交渉ノ模様ヲ尋ネタルニ付大体説明シ置キタルニ若シ日本ニ於テ支那側ト本件ノ交渉纏マルニ於テハ遲滞無ク御知ラセアリ度仏國側ハ日本ノ取極ニ追従シテ解决スヘシト申出アリタリ

読シ今日午後ニハ清書ノ上署名ヲ了スヘシト語リ尚公文ノ写ハ出来次第送付スヘキカ發表ニ閔シテハ米支兩國同時ニ發表スルコトニナリ其ノ期日未タ打合ヲ了セサレハ外間ニハ絶対秘密ヲ守ラレタシト付言セリ右取極ノ要点左ノ如シ一、黃鄂ヨリ(イ)南京事件ニ閔シ南京政府ハ其責ヲ負ヒ賠償ヲ為シ将来米国人ニ対スル暴行ヲ取締ルヘキ旨ヲ述ヘタル公文(四六二文書別電)第一一二三号前半ニ同シ(ロ)米國軍艦砲擊ニ閔シ米國政府ノ遺憾ノ意ヲ表スルコトヲ求メタル公文ハ條約改訂ニ閔スル公文ノ三通ヲ米國公使ニ送リ米國公使ハ(イ)ニ對シテハ南京政府ニ於テ發令シタル禁令内容等ヲ記述シタル長文ノ回答ヲ与ヘ(ロ)ニ對シテハ砲擊ハ當時居留民保護ノ為ニ已ムヲ得サル措置ナリシ事情ヲ詳細記述シタル後「米國政府ハ深ク遺憾トス(deeply deplore)云々」ノ文字アル文章ヲ以テ結ヘル回答ヲ与ヘ(ロ)ニ對シテハ昨年ノ米國國務卿ノ声明書ヲ引用シテ大体英國案ノ趣旨ニテ更ニ之ヨリモ長文ノ回答ヲ与ヘ(ロ)損害賠償ニ付テハ双方ヨリ二名宛ノ調査員ヲ任命シ若シ議纏ラサル時ハ第三國ノモノヲ加フルコト等大体英國案ノ趣旨ニ基キ覚書ト為シ但シ領事館及館員ノ賠償額ハ調查委

三十日正午米國公使本官ニ面会シタントノコトニ付往訪シタルニ英仏兩國總領事モ招カレ居リ其席上同公使ハ南京事件ニ關シ昨日午前十時ヨリ今朝一時ニ至ル迄十余時間ニ亘ル黃鄂トノ討論ノ結果漸ク交渉纏マリタリト述ヘ原稿ヲ朗

第一九四号

上海 発  
本省 3月30日後着

## 南京事件米中交渉妥結に関する米公使の内話

501 昭和3年3月30日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

員ノ査定ヲ要セサルコトトセリ

一、黃郛ニ対スル「アーベンス」<sup>アーベンス</sup> His Excellency General Hwang Fu Minister for Foreign Affairs at Nanjing ナンキン国民政府ナル文字ヲ避ケタリ

~~~~~

502 昭和3年3月(31)日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛(電報)

南京事件解決交渉の現状に關し英國公使の説明について

北 京 発
本 省 3月31日前着

* 第三八九号
(四九九文書)

往電第三七四号ニ閲シ

二十八日帰京シタル英國公使ハ二十九日本使ヲ來訪先ツ二ヶ月間ノ旅行中愉快モアリ又非常ニ苦キ経験ヲ嘗メタリト前置シテ南京事件ニ閲シテハ南京側ト交渉ノ次第ハ逐一其都度本国政府ニ電報シタルモ最後ノ瞬間迄ハ何等反対ノ意思表示ナカリシ處及最後ニ至リテ砲撃事件及不平等條約ノ二件ニ関スル協定否認ノ電報ニ接シ自分モ非常ニ苦境ニ立チ

上 海 発
本 省 3月31日後着

* 第一九七号
(五〇一文書)

往電第一九四号ニ閲シ

三十一日朝米國総領事ハ本官ニ対シ昨日公文ノ署名ヲ了シタル旨ヲ述ヘ右公文写ヲ手渡セリ右ハ長文ナルノミナラス米國公使ノ回答中ニハ支那公文ノ趣旨ヲ繰返シアルニ付不取敢別電第一九八号第一九九号及第二〇〇号ヲ以テ右回答ノミ電報ス賠償ニ閔スル覚書ハ未タ完了セサル由ナリ

米國総領事ハ昨日公文ノ全文ヲ北京へ打電済ナレハ芳沢公使ハ米國公使館ヨリ本日写ヲ入手セラルル筈ナリトノコトニ付別電ハ同公使ニ電報ス尙發表ハ米國公使ノ南京行決定セハ南京ニ於テ為スコトニナリ居レリ若シ南京行ヲ見合スコトトナレハ四月一日夜上海ニテ發表スヘシトノコトナリ

~~~~~

504 昭和3年3月31日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件米中間解決に英仏伊追随の見込について

南京事件文渉不成立を遺憾とする旨の蔣介石

タルカ之カ善後措置トシテ二個ノ案ニ付先方ト協議セリ第

一案ハ砲撃事件及不平等条約ニ閔スル件ヲ一切公文中ヨリ削除スルコトニシテ右ハ自分ヨリ提案シタルモノナル処予期ノ通り南京側ニ於テハ直ニ不同意ヲ表明セリ第二案ハ黃

郛ノ一友人ヨリ試案トシテ提出シタルモノニシテ南京事件解決ニ閔スル公文ハ一切之ヲ撤回シ其代リ南京政府ヨリ單ニ第三ノ命令(mandate)ヲ交付スルコトトシ(第一ハ林祖涵逮捕令第二ハ外國人生命財産保護令)右命令ニ於テ南京政府ハ英國側ニ対シ損害賠償ヲ承認シ且賠償委員会ヲ設ケ賠償事務ヲ處理セシムルコトトシ其ノ代リ英國側ヨリ不平等条約ニ閔シ何等カノ言明ヲ与フルコトスト言フニ在リ右ニ付テハ黃郛ハ執行委員会ノ議ヲ纏ムル為四十一時間ノ猶予ヲ希望シタルモ自分ハ滯在ヲ延期スルコトノ不得策ナルヲ考ヘ後図ヲ「バーントン」ニ託シ出発シタル次第ニテ「ヒュウレット」ハ尚上海ニ居残リ居レリト説明シタリ

503 昭和3年3月(31)日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 米中間南京事件交渉妥結について

上 海 發  
本 省 3月31日後着

\* 第二〇二一号  
(五〇三文書)

往電第一九七号米支交渉ニ閲シ

一、英國総領事曰ク支那側ハ我等ニ讓歩セサリシ点ヲ米國ニ讓歩シタル点アリ確ニ英支交渉ヨリモ良クナリ居レリ自分モ右米國ノ例ニ倣ヒ解決スルコト得策ナリト信ス英國公使モ勿論同意見ナルヘシ尤モ米國政府ヨリハ未タ何等訓令ナシ

二、仏、伊両國総領事ハ本官ニ対シ日本政府ハ如何ニセラルルヤト質問シタルニ付支那側ニ於テ條約問題ヲ放棄セサルニ於テハ日本政府ハ此ノ際強テ解決セサルヘシト答ヘタルニ両総領事ハ我等ハ損害勧キコトニテモアリ條約云々ハ左シテ重要トモ思考セラレサルニ付米國ニ追従スル外無カルヘント述ヘタリ

505 昭和3年4月(2)日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件米中間解決に英仏伊追随の見込について

の談話に関する岡本在南京領事報告

上 海 発

本省 4月2日後着

\* 第二〇六号

南京発貴大臣宛電報

第四二号

本三十日蔣介石ニ面会シタル処外間ニハ絶対ニ秘密ナルモ  
明三十一日出発徐州ニ向フ旨内話シタル後左ノ通語レリ  
武漢広東方面共北伐ヲ中止トシテ意思完全ニ疎通シ武漢軍  
モ李宗仁赴漢以来積極的北進行動ヲ起シ広東方面ヨリハ啻

ニ軍ヲ派遣スルノミナラス軍費モ出来得ル限り支出スルコ  
トニ李濟深ト打合ヲ了セリ各後方ニ対スル疑惧ノ念全然去

リタルヲ以テ全力ヲ擧ケテ所期ノ目的達成ニ邁進スルヲ得

乍然今尚干戈ニ訴フルコト無クシテ円満ニ解決ヲ為シ得ハ  
之ニ越シタルコト無シト考ヘ居リ何等氣付ノ点アラハ黃郛

ト談合ヲ請フ

南京事件解決ニ関シ日英側トノ不成立ハ遺憾ナリ條約問題  
ノ如キ只我ノ面目ヲ立テシムル程度ニ於テ全然南京事件ト

別個ニ日本政府從來ノ声明ヲ繰返サルルノ程度ニテ宜敷ク  
乍然今尚干戈ニ訴フルコト無クシテ円満ニ解決ヲ為シ得ハ  
之ニ越シタルコト無シト考ヘ居リ何等氣付ノ点アラハ黃郛

ト談合ヲ請フ

南京事件解決ニ關シ日英側トノ不成立ハ遺憾ナリ條約問題  
ノ如キ只我ノ面目ヲ立テシムル程度ニ於テ全然南京事件ト

別個ニ日本政府從來ノ声明ヲ繰返サルルノ程度ニテ宜敷ク  
乍然今尚干戈ニ訴フルコト無クシテ円満ニ解決ヲ為シ得ハ  
之ニ越シタルコト無シト考ヘ居リ何等氣付ノ点アラハ黃郛

\* 第四二九号

506 昭和3年4月(6)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

南京事件に関する米中交換公文に對し一般英

米人の觀察について

本省 4月6日後着

北京 発

往電第四一五号ニ關シ

南京事件ニ關スル米支交換公文発表セラレテ以来当地諸方面ノ話題ニ上リ居ル處英米人ノ觀察ヲ綜合スルニ先ツ英國

タリト推測シ砲撃ニ關スル公文ノ文句ヲ憾マサルモノ亦鮮カラサルカ如シ一般新聞論調ハ別電ス

ク「マクマレー」ノ成功ヲ謳歌シ居ルモ亦一方上海総領事發閣下宛電報第二〇九号「ノースチャイナ・デーリー・ニュース」所論ニ影響セラレタル為カ(「ルータ」)モ同様報道セリ)大統領選挙ノ為「マ」ハ解決ヲ余儀ナクセラタリト推測シ砲撃ニ關スル公文ノ文句ヲ憾マサルモノ亦鮮カラサルカ如シ一般新聞論調ハ別電ス

日本との間に南京事件解決を強く希望する旨  
の黄郛の申残しについて

付記 七月二十七日調 亞細亞局第一課

「南京事件交渉経過」(昭和三年交渉再開闋

田中外務大臣宛(電報)

南京 4月7日後発

本省 4月8日前着

第五〇号

ト觀測シ居ルモノノ如ク別電第四三〇号京津「タイムス」  
所論ノ如キ「ライハース」ノ議論迄トハ行カサルモ一般ニ  
米国側抜駆ケノ功名ニ相当不快ヲ感シ居ルモノノ如キ廻米  
人中ニハ一般ニ別電第四三〇号北京「リーダー」所論ノ如

右声明ヲ發セラレタリトテ今直ニ條約改訂ニ着手サレ度シ

ト要望スルニ非ス特ニ日本側トノ交渉不成立ハ遺憾ナリ只

今黃部長ヨリ得タル報告ニ依レハ米國側トハ成立セル模様ナリ

先般懇々御願致シ置キタル通濟南方面居留民保護ニ付テハ  
自分ハ断シテ責任ヲ負フヲ以テ重ネテ出兵スルカ如キ事無  
キ様日支間ノ為ハ勿論朝野ノ同情ヲ表セラル自分ヲシテ  
成功セシムル意味ニ於テモ是非御一考ヲ請フ云々

ナリ

ナルニ付電報ス

南京事件ニ付テハ部長就任前ヨリ先ツ日本ト解決シ度キ考  
ヘニテ客年矢田總領事ト会談シタルハ御承知ノ通ナリ而シ  
テ曩ニ二月末貴官着任後会見ノ際モ日支間ニ於テ先ツ本件  
解決ヲ試ミタシテ御詫シタル程ニテ決シテ故意ニ米国側ヲ  
快ニ考ヘラレ居ル旨報告アリタル由) 米国トノ間ニ案外容  
易ク纏リタルハ部長モ聊カ意外トセシ次第ナルカ実ハ條約  
問題ノ如キ米国トノ交換公文ニ依リ支那ニ於テ特ニ何等得  
ル所アリタリトハ考ヘ居ラス忌憚ナク云ヘハ右ニ依リ国民  
ヲ欺ケルニ過キス部長トシテハ衷心此ノ際日支ノ関係ヲ改  
善シ万般ノ問題ニ付両国提携シテ他外国ニ拮抗スルノ基礎  
ヲ作リ度ク希望シ居リ幸ニシテ国民政府ニ於テモ外交ニ関  
シテハ部長ノ意見未タ曾テ容レラレサル事無キ状態ナルヲ  
以テ此ノ際日本トノ間ニ南京事件ヲ解決シ得ハ一層立場ヲ  
良好ナラシメ自分ノ目的達成ニ資スル所大ナリ就テハ條約  
問題ヲ全然別個ニ取扱ヒ日本側ニ於テハ單ニ(客年三月前  
内閣ノ声明及現内閣其ノ後ノ声明ハ今尚變ル事ナシ) 程度  
ノ声明ヲナサレ之カ発表モ事件解決発表ノ翌日トナスモ可

四

ナルニ付何トカ此ノ機会ニ御考慮ヲ願ヒタシ  
廈門事件ニ関シテモ嚴重各方面ヨリ越規行動ノ取締ヲ命シ  
タル次第ナルカ実ハ本件並ニ漢口ニ於ケル鮮人引渡問題等  
小問題ニシテ而カモスノ如キ紛糾セル所以ハ彼等鮮人カ凡  
テ国民党員トナリ居リ自然地方党部ニ於テ同情シ中央党部  
又二、三有力者ニシテ彼等ヲ国事犯トシテ取扱フ可ク主張  
スルモノアルニ依ル次第ナルヲ以テ近ク李烈鈞、譚延闔、  
陳友仁、蔣介石等有力者全部ヲ發意者トシ此ノ際鮮人ヲ凡  
テ国民党ヨリ除外スルノ案ヲ建テ居リ要スレハ彼等中ノ不  
逞分子ヲ一網打尽日本側ニ引渡ス事トナシタク考ヘ居レハ  
旁上海總領事ヨリ申報セル通リ本件解決ニモ特別ノ考慮ヲ  
払ハレタシ事実日本關係ノ事件解決ニハ頗ル考慮致シ居リ  
過日廈門ニ於テ米艦誤ツテ良民一名ヲ射殺シタル事件ノ如  
キ米国ハ直ニ五千五百弗ヲ弔慰金トシテ支出シ謝罪及処罰  
モ実行シタル為メ地方官民一入氣勢ヲ挙ケ居リ事情ハ異ナ  
リ居レルモ厚田丸事件解決ニ累ヲ及ホス可キヲ虞レ外交部  
ヨリハ寺ニ之ヲ發表セサル事トナシタル次第ナリ云々

九、交渉停頓ノ状況  
右ニ対シ四月十三日政府ハ次官カ条約問題ヲ切離サハ差  
支ナシト述ヘタルハ此ノ際本問題ニハ全然触レス之ヲ他  
日ノ問題トスルニ於テハ南京事件ノ解決ニ同意シ得ヘシ  
トノ趣旨ニシテ公文ノ日付及発表ヲ遅ラスカ如キ姑息ノ  
方法ニテハ到底承認シ難キニ付右然ルヘク支那側ニ回答  
スヘキ旨矢田総領事ニ電訓セリ

八、政府ノ回訓  
トニ決シタルヲ以テ今一度日本政府ニ電稟有リ度キ旨申  
出テタルノ趣同総領事ヨリ電報アリタリ

九月十一日袁良矢田総領事ヲ來訪シ在京殷汝耕ヨリ五日  
出淵次官トノ会見ノ結果日本政府ハ条約問題ヲ全然別個  
ノモノニ切離セハ差支無シトノ意向ナリトノコトナルニ  
付南京政府ハ最後ノ讓歩トシテ条約ニ関スル公文ハ日付  
ヲ遅ラスノミナラス発表ノ日取リモ遅ラシ別々ニナスコ  
トニ決シタルヲ以テ今一度日本政府ニ電稟有リ度キ旨申  
出テタルノ趣同総領事ヨリ電報アリタリ

日米支間ニ本件交渉成立スルアリ他方三月三十一日蔣介石北上シテ北伐軍事開始セラレ内外ノ注意之ニ集中セラルルニ至リ旁々本件交渉ハ遂ニ其ノ儘停頓ノ状態ト成リテ今日ニ及ヘリ

尙前頃南京政府ノ外人保護令及逮捕處罰令ハ交渉成立ヲ  
俟タス三月十六日南京政府ヨリ自發的ニ發布セラレタリ

トシテモ義務ヲ履行スルノ能力アル政府ノ樹立ヲ待チテ旧

條約ヲ新時代ニ適応スル様改訂シ以テ支那ノ要望ニ副ハシ

用意アルコト及在支軍隊モ近ク之ヲ更ニ減少スルノ望アル

コト等ヲ説示シタリ（以下略）

508 昭和3年8月(1)日 在英國佐分利臨時代理大使より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件解決後国民政府との交渉開始に関する英外相の議会答弁について

ロンドン 発

本省 8月1日着

\*第一五四号（抜萃）  
三十日下院本会議ニ於ケル支那問題ノ質問ニ對シ外相ハ米

国ハ何等他国ト相談セシテ對支覚書ヲ送リ又條約ヲ締結シタルモノナルカ英國トシテハ諸國ニ先シシ事ヲ為サンコ

トヲ望ムモノニアラス既ニ對支政策ノ大綱ハ之ヲ公表シ亞

レハ南京事件サヘ片付カハ直ニ右大綱ニヨリ商議ヲ開始スルコトヲ得ヘシ南京事件ニ付テハ最近国民政府側ヨリ上海及南京總領事ニ新ニ商議シ來レル處アリ目下折角交渉中ナリト答弁シタルカ同院予算委員会ニテモ同様ノ質問アリ之ニ對シ外相ハ国民政府トノ交渉ハ南京事件ノ解決ヲ以テ開

始セラルヘシ支那ニ於ケル生命財産安固トナリ且文明國家トシテモ義務ヲ履行スルノ能力アル政府ノ樹立ヲ待チテ旧條約ヲ新時代ニ適応スル様改訂シ以テ支那ノ要望ニ副ハシ用意アルコト及在支軍隊モ近ク之ヲ更ニ減少スルノ望アルコト等ヲ説示シタリ（以下略）

509 昭和3年8月(9)日 在英國佐分利臨時代理大使より  
田中外務大臣宛（電報）

ロンドン 発

本省 8月9日着

\*第一六〇号  
往電第一五八号ニ関シ

八日「ウエルズレイ」ハ南京事件ハ支那側ヨリ折レテ事實上解決ニ至リ最早何時ニテモ手続ヲ了シ得ル事トナレリト語レリ尚右解決ノ後ハ英國側ニ於テ直ニ一般問題ノ交渉ニ入ル用意アル次第ナリヤトノ本官ノ質問ニ對シ「ウ」ハ右ニ付テハ英國側ヨリ進シテ何等ノ措置ニ出テ斯何レ支那側

ヨリ「ムーブ」スヘシト思考スルニ付其ノ上ニテ態度ヲ決スルコトトナルヘシト答ヘタリ

ロンドン 発

本省 8月12日前着

\*第一六七号

510 昭和3年8月(10)日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

バーントン英國總領事南京事件解決文書に調印について

南京 発

本省 8月10日後着

\*第三六六号

往電第三六五号ニ閲シ  
英國總領事「バーントン」本九日午後四時來寧南京事件解決ノ調印ヲ了セリ不取敢

511 昭和3年8月(12)日 在英國佐分利臨時代理大使より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件解決文書に関する英外務省極東部長の談話について

中仏間南京事件解決案は條約改正交渉開始の時期のみ意見一致せざる旨の仏国代理公使の談話について

北 京 発  
本省 9月11日前着

\*第一二八九号

仏国代理公使ハ十日本使ニ対シ仏支南京事件解決案ハ南京政府トノ間ニ商議完結シ王正廷ニ於テモ之ニ調印スヘキ旨言明シ其ノ原案ニハ政情安定ノ上ハ條約改正ニ応スルコトナリ居リタルニ拘ラス王ハ最後ニ至リ條約改正ニ関シ此ノ際直ニ改正ノ商議ヲ開クコトニ修正シ度キ旨ヲ申出タルニ付本国政府ニ請訓シタル処八日同政府ヨリ仏国政府ハ今更右ノ如キ字句ノ修正ニ応スル能ハサル旨回訓シ來リタルニ付其ノ旨直ニ王ニ電報シタルカ今日迄何等返電ニ接セサル次第ナリト語リタル尚同代理公使ハ帰館後直ニ本使ニ特ニ電話ヲ持テ右談話ノ次第ハ極秘ニ付シ置カレ度キ旨請求シ來リタルニ付右ニ御含ミ相成度シ

513 昭和3年9月(25)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

イタリア、南京事件解決仮調印について

514 昭和3年10月(12)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

イタリアの南京事件解決協定正式調印について

北 京 発  
本省 10月12日前着

\*第一四一二二号

往電(五一三文書)  
一二三四三号ニ関シ

伊国公使ハ伊支南京事件解決協定ニ九月三十日正式調印ノ上南京政府ニ送付シ右ハ既ニ十月九日到着シタル由ニテ同公使ヨリ右協定写本使ノ内覽ニ供シ来リタルカ右協定ノ内容ヲ英米ノ協定ト比較スルニ砲撃及条約問題ニ関スル「ノート」ナキ外一般解決条項ニ付テハ趣旨ニ於テ大体差異ナキモ各条項共簡単ニナリ居レリ何レ発表セラル由ニ付電報ヲ差控ヘ郵送ス

515 昭和3年10月19日 在上海清水総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

日中諸懸案に関し王外交部長と交渉開始について

上 海 発  
本省 10月19日後着

\*第七五〇号

南京発本官宛電報

二十五日伊国公使館員ノ須磨ニ語ル處ニ拠レハ伊支南京事件ニ付米英ト略同一ノ形式ニテ協定成リ上海総領事ニ於テ既ニ仮調印ヲ了シタル趣ナルカ目下公文上海ヨリ郵送中ナルニ付細目ハ未タ明カナラス本協定ハ王正廷調印済ノモノヲ伊国公使館ニ送致シ公使ニ於テ正式調印ヲ為ス形式トナリ居レル處右交渉ノ成立ハ條約改正問題ニ何等ノ影響ナキモノト考ヘ居リ伊國側トシテハ本問題ニ付依然從来ノ態度ヲ持続シツツアリ尤モ之カ交渉ノ為公使自身何レ南下ノ予定ナルカ交渉開始期ハ且下ノ処全然未定ナル趣ナリ尚同日仏国代理公使ノ本使ニ語ル處ニ依レハ仏国ハ断然南京事件解決ノ希望ヲ放棄シ本件ハ其ノ儘トナリ居レル趣ナリ

第二五日伊国公使館員ノ須磨ニ語ル處ニ拠レハ伊支南京事件ニ付米英ト略同一ノ形式ニテ協定成リ上海総領事ニ於テ既ニ仮調印ヲ了シタル趣ナルカ目下公文上海ヨリ郵送中ナルニ付細目ハ未タ明カナラス本協定ハ王正廷調印済ノモノヲ伊国公使館ニ送致シ公使ニ於テ正式調印ヲ為ス形式トナリ居レル處右交渉ノ成立ハ條約改正問題ニ何等ノ影響ナキモノト考ヘ居リ伊國側トシテハ本問題ニ付依然從来ノ態度ヲ持続シツツアリ尤モ之カ交渉ノ為公使自身何レ南下ノ予定ナルカ交渉開始期ハ且下ノ処全然未定ナル趣ナリ尚同日仏国代理公使ノ本使ニ語ル處ニ依レハ仏国ハ断然南京事件解決ノ希望ヲ放棄シ本件ハ其ノ儘トナリ居レル趣ナリ

ヘキニ付御安心アリ度シト答ヘタリ

依テ本官ハ話頭ヲ転シ然ラハ之ヨリ懸案ニ付順次商議スル

コトトスヘシト述ヘ條約問題及濟南南京漢口事件解決ニ関

スル具体的意見ノ交渉ヲ為シタルカ先方ニ於テ材料等ヲ用

意シ居ラサリシ為單ニ意見ノ交換ニ止マリ何等纏ルニ至ラ  
ス正午辞去午後三時再ヒ会見ノコトトセリ

\*  
第五七一號

矢田總領事ヨリ

南京 10月21日後発  
本省 10月22日前着

516 昭和3年10月21日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件の交渉経過に関する矢田在上海總領事報告

別電一 十月二十一日付在南京岡本領事より田中外

務大臣宛第五七二号

南京事件解決方に関する国民政府外交部長  
より日本側宛案文

二 十月二十一日付在南京岡本領事より田中外  
務大臣宛第五七三号

南京事件解決方に関する日本側より国民政  
府外交部長宛回答案文

十九日王トノ第一回会見以来本官ハ機会アル毎ニ南京及漢  
口事件ニモ言及シタルカ十九日午後会見ノ際南京事件ヲ正  
式ニ議題ニ供シ本官ヨリ黃郛トノ交渉ノ大体ヲ説明シ往電  
〔四六二文書別電〕第一一二三号 三月五日袁良提出ノ草案第二ヲ示シ黃トノ交  
渉ニテハ右草案ヲ基礎トシ修正ノ箇所モ既ニ大体彼我ノ意  
見一致シ残ル所ハ同草案ノ末段不平等條約云々ノ点ナルカ  
条約問題ニ付テハ既ニ貴下トノ間ニ商議シ居ル現状ナレハ  
貴下モ之カ削除ニ異議ナカルヘシト語レル処王ハ不平等条  
約云々ノ一項ハ削除ニ異議ナキモ自分ハ貴下ト黃郛トノ交  
渉経過ニ付テハ何等知ル処ナク黃ヨリ引繼フ受ケ居ラス且  
右草案ナルモノハ目下外交部ニテ保管シ居ラス去リトテ杭  
州ニ在ル黃ニ照会スルモ大變ナル処南京事件ニ付テハ英、  
米、仏、伊ト大体同様ノ案文ニテ解決シ居ルニ依リ右ニ做  
ヒ日本トノ解決ヲ計リタキ旨述ヘタリ依テ本官ハ南京事件  
解決ニ付テハ日本ハ独自ノ見地ヨリ交渉ヲ進メ長日月ヲ費  
シ申告額ヲ支払フモノナルコトヲ確メ王ノ同意ヲ取付ケ置  
キタリ

就テハ別電第五七二号及第五七三号案文ニ付御詮議ノ上何  
分ノ儀至急御回電アリタシ

王モ前記草案第二ノ採用ニハ異議アル次第ニハ非サルカ只

今ハ草案起草當時トハ大分事情モ異ナリ從テ右草案ヲ採用

ストスルモ二、三字句ノ修正ヲ必要トスル箇所アリト執拗

ニ主張シ居リ右ハ黃郛ニ対スル王ノ面子ノ問題ナル処見受

ケラレ我方ニテ其儘採用方ヲ固執スルモ容易ニ埒明カサル

形勢ニテ昨夜ト同様共ニ晚餐ヲ取リツツ談シタルカ王ノ各

提案ハ実ハ草案第二ト大差ナク而モ貴電〔五七二文書〕第二二三一号訓令ノ

次第モアルニ付食事終ル頃本官ヨリ王ニ対シ自分ハ責任ハ

負ヘサルカ免モ角貴下ノ新提案ヲ本省ニ取次キ見ル事トス  
ヘシト述ヘタルニ王ハ非常ニ喜ヒ食卓ヲ離レテ更ニ案文ニ

付審議シタルカ同案文前段ニハ日本人民ノ受ケタル財産上

ノ損失等ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スル事トナリ居ルヲ以テ本官

ハ我方カ領事館ノ侵害ヲ重大視シ居ル事實ヲ指摘シ領事館  
ナル一語ヲ插入セシメ尚領事館ハ勿論領事館々員（巡查ヲ  
含ム）ノ損害ニ付テハ調査ヲ要セス何時ニテモ申告次第直

（別電一）  
第五七二号  
矢田總領事ヨリ  
外交部長ノ日本宛照会（訳文）  
南京 10月21日後発  
本省 10月22日前着

茲ニ本部長ハ国民政府ノ名義ヲ以テ本事件ハ調査ノ結果完  
全ニ共產党カ国民政府南京建都以前ニ於テ煽動シテ發生セ  
シタルモノナル事ヲ実証シ得タルモ在南京日本領事館及  
日本人民ノ受ケタル財産上ノ損失及身体上ノ傷害ニ対シ極

メテ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ向ツテ遺憾ノ意ヲ表示セ  
サルヲ得ス

国民政府ハ在華日本人ノ生命財産ニ対シテハ既ニ其ノ所持  
セル政策ニ基キ切実ナル保護ヲ実行シ並ニ切実ナル弁法ヲ

設ケ以テ該事件ニ参与セル兵士及其ノ他ノ人員ヲ懲弁セル

ニ付今ヤ共産党及其ノ中日人民ノ友誼ヲ破壞スヘキ惡勢力  
ハ既ニ消滅セリ從テ国民政府ハ今後外人ノ保護ニ付テハ自  
ラ力ヲ尽シ易キカ故ニ特ニ責任ヲ負ヒテ日本居留民ノ生命  
及其ノ正当ナル事業ニ対シ再ヒ同様ノ暴行及煽動ハ之ヲ發  
生セシメサルヘキ事ヲ深ク信ス国民政府ハ両国ノ友誼ヲ保  
持センカ為日本居留民ノ受ケタル身体上ノ傷害及財産上ノ  
損失ニ対シ國際公法ノ一般的原則ニ依リ速ニ充分ナル賠償  
ニ応スルノ準備ヲ有ス此ノ為国民政府ハ中日調査委員会ヲ  
組織シ以テ該事件発生地點ニ於ケル日本人ノ支那人方面ヨ  
リ受ケタル傷害及損失ヲ実証スルト共ニ毎件方ニ賠償スヘ  
キ数目ヲ査定セン事ヲ提議ス御回答ヲ請フ右照会ス

(別電二)

\* 第五七三号

矢田總領事ヨリ

国民政府ニ対スル回答案(訳文)

月 日照会ヲ接受セリ本(空)ハ貴部長ト同様中日両国人  
民ノ友誼ヲ維持發展セシメムトスル基礎ニ於テ南京事件ヲ  
解決セムトスルノ用意ヲ有ス日本政府ハ此ノ精神ニ基キ昭  
和二年三月二十四日南京ニ於テ日本領事館及日本人民カ受  
ケタル身体上ノ傷害暴行及物質上ノ損失ニ対シ表示セラレ  
タル誠懇ナル遺憾ノ意及国民政府ノ明白ニ表示サレタル懲  
弁ノ趣旨ヲ承受シ本(空)ハ深ク満足スルト共ニ国民政府ハ  
犯罪者ノ処分及責任者ノ懲弁ニ対シテハ必ス速ニ是ヲ履行  
シ得ヘク将来當然各種ノ弁法ヲ以テ在支日本人民ヲ保護シ  
以後再ヒ同様ノ事件ヲ發生セシメサル事ヲ保障シ得ルモノ  
ト深ク信ス

本(空)ハ中日調査委員会ヲ設立シ其委員ハ双方ヨリ選定シ  
各日本人ノ身体財産上ニ与ヘラレタル一切ノ損失ヲ審査算  
定シ以テ補償ニ具ヘムトスル提議ニ対シテハ深ク同意ヲ表

ス  
本(空)ハ又国民政府カ以上各点ノ責任ヲ履行スル時ハ必ス

ヤ中日両国ノ友誼ヲ發展セシムヘキ事ヲ確信ス此ノ真理ニ  
基キ本(空)ハ最短期間内ニ於テ右責任ヲ履行セラルニ於  
テハ南京事件ニ依リ發生セル各種問題ハ根本的解決ヲ告ケ  
タルモノト認定ス

右照会ス

アルノミナラス黃郛ノ案ヨリモ退歩ノ感アルニ付左ノ諸  
点修正セシメラレタン

(1) 貴電第五七二号支那側照会案中謝罪ノ点ハ日本領事館  
及日本人民ノ受ケタル財産上ノ損失及身体上ノ傷害ニ  
対シ遺憾ノ意ヲ表スルコトトナリ居ル處英支ノ解決文  
ニ於テハ右ノ外英國政府ノ正式代表者ニ加ヘラレタル  
indignities and injuriesニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルコト  
トナリ居リ米支ノ例モ大体同様ニシテ右ハ当然ノ事ト  
思考スルニ付右英支ノ例ニ依リ修正セシメラレ度ク尚  
共産党云々ノ点ニ付テハ英米同様本事件ハ共産党カ國  
民政府南京建都以前ニ於テ煽動シテ發生セシメタルモ  
ノナルモ国民政府ハ之ニ対シ責任ヲ負フ旨ヲ挿入セシ  
メラレタシ

(2) 関係者処罰ニ付簡単ニ言及セルニ過キサルハ不充分ナ  
ルニ依リ曩ニ貴官ト黃郛トノ間ニ成立セル案文ノ如ク  
第十九師ノ解散ヲ明記シ且三月十六日処罰令ヲ引用ス  
ルカ或ハ少クトモ英米トノ解決文第四項ト同一ノ一節  
ヲ挿入セシメラレ度シ

(3) 在支日本人ノ保護ニ関シテハ「既ニ所持セル政策ニ比シ遙色  
一、南京事件ニ關スル日支間ノ解決カ英支及米支ノ解決ニ  
比シ不利ナルヲ得サルハ勿論ナル処南京發第五七二号及  
第五七二号貴電ノ案文ハ英支及米支ノ解決文ニ比シ遙色

第一〇一號  
貴電第五七一號ニ關シ  
矢田總領事ヘ

本省 10月24日前發

517 昭和3年10月24日 田中外務大臣より  
在南京岡本領事宛(電報)

南京事件解決案文の修正方矢田在上海總領事

へ指示について

南京 10月21日後發  
本省 10月22日前着

第五七二号文書別電  
第五七二号貴電ノ案文ハ英支及米支ノ解決文ニ比シ遙色

(4) 在支日本人ノ保護ニ關シテハ「既ニ所持セル政策ニ比シ遙色

キ切実ナル保護ヲ実行シ」ト云ヒ「再ヒ同様ノ暴行及煽動ハ之ヲ發生セシメサルヘキコトヲ深ク信ス」ト云フノミニシテ将来ニ対スル保障甚タ不充分ナルニ付英米トノ解決文第三項同様国民政府カ命令ヲ出シタルコトヲ明記シ（出来得レハ三月十六日ノ明令ヲ引用シ）且将来同様ノ事件ヲ發生セシメサルヘキコトヲ約スル旨ヲ明記セシメラレ度シ

(二) 損害賠償ニ付テハ貴電第五七一號末段ノ次第モアルニ付黃郛案ノ如ク南京領事館ノ受ケタル一切ノ損害ハ直ニ賠償スルノ用意アル旨ヲ明記セシムルコトトシ度ク之ニシテ不可能ナラハ少クトモ英米ニ付スルト同様ニ「領事館官吏及其ノ他ノ日本人ノ受ケタル身体上ノ傷害及財産上ノ損失」云々ト致シ度シ

(三) 貴電第五七三號我方回答案ニ付テハ英國側ノ回答ノ如クスルコト

二、損害ノ賠償ニ付テハ曩ニ英國側ト黃郛ト交渉ノ際支那側ハ第一次資金トシテ五國ヲ通シ二十万弗ヲ用意スヘキヲ提議シ英國側ハ同國ノミニ百万弗支出ヲ要求シ結局前記二十万弗ノ外ニ英國ノミニ対シ十五万弗ヲ用意スルコ

三、尚第一項修正ノ諸点ヲ包含セシメ本件往復文案當方ニ於テ立案シ為念別電第一〇二號ノ通り電報ス  
編注 別電第一〇二號見当らず。

518 昭和3年10月25日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

### 矢田在上海総領事と王正廷との漢口事件の性

### 格ならびに解決案論議について

南京 10月25日前發  
本省 10月25日前着

\*第五九〇号

矢田総領事ヨリ

漢口事件ニ関シテハ本官ニ於テ大体南京事件解決ト同様陳謝、賠償、共同調査委員会ノ組織承認ノ三項ヨリ成ル支那側発日本宛照会案ヲ起草シ二十日王ニ交付シ置キタル処愈二十二日午前本件討議ヲ開始スルコトナリタルカ先ツ右我方ノ案ニ対シ作成セル王ノ対案ヲ一見セルニ賠償ハ相互的ニ為スコト日本海軍ノ発砲ニ因ル支那側ノ死傷ニ対シ日本政府ノ陳謝ヲ要求シ双方ノ損害調査ノ為委員会ヲ組織スルコト等ヲ述ヘタルモノニテ王ハ右ニ付説明ヲ加ヘ自分ノ有スル書類ニ依レハ事件ハ日本水兵カ支那人車夫ト争論シ之ヲ殺害セルニ端ヲ發シ後日本海軍ノ機関銃発射ニ因リ死傷者ヲ出シタル次第ナルニ付支那側ヨリ陳謝ヲ要求スヘキ筋合ナリト述ヘタルニ付本官ハ右ハ非常ナル錯誤ナリ然ラハ一応説明致スヘシトテ漢口來電ニ基キ予テ作成シ置キタル文書ニ基キ事件ノ発端ヨリ説キ起シ交渉経過ノ要領一応

トトナリ又仲裁方法ニ付テモ話合ヒアリタル由ニテ（上海発貴電<sup>第五一六七号文書</sup>）他方米支間ニハ交換公文ノ外ニ賠償ニ関スル覚書乃至ハ調査委員会ニ付スル訓令ノ如キモノ起草中ナリシ趣ニテ（上海発貴電第二〇一號及在支公使發本大臣宛電報第四五九號参照）其ノ後ノ決定ハ不明ナルモ兎ニ角英米側ハ賠償方法ノ細目ニ付相当交渉シタルモノト認メラルニ付貴官ニ於テモ此際支那側ニ對シ前記ノ諸点ニ付英米等ト如何ナル協定乃至ハ話合アリタルヤ将又我方ニ付シテハ如何ナル取扱ヲ為ス意向ナリヤヲ確メ一應相當ノ話合ヒヲ遂ケ少クトモ賠償額査定及賠償金支払ニ付我方ヲ他国側ノ何ヨリモ不利ナル地位ニ置カサルヘキ旨ノ了解ヲ取付ケ置カレタシ

三、尚第一項修正ノ諸点ヲ包含セシメ本件往復文案當方ニ於テ立案シ為念別電第一〇二號ノ通り電報ス  
編注 別電第一〇二號見当らず。

トスル考ハ毛頭之無キモ御承知ノ通り陳ハ武漢ヨリ逃亡セ  
ル者ニテ外交文書モ正式引継キタル訳ニ非ス本件ハ全然武  
漢政府ノ責任ナル処今回政府消滅シ責任者タル唐生智ノ如  
キモ亡命シ居ル次第ニテ彼ヲシテ責任ヲ執ラシムルコト亦  
不可能ナリ又事件発端及経過ニ付テハ理論ヨリ言ハハ調査  
ノ要アルモ急速解決ヲ計ル為メ又既ニ事件発生後唐生智自  
身領事館ニ来リ非公式ニ遺憾ノ意ヲ表シタルコトニモアリ  
陳謝ハ済ミタルコトトシ賠償ノミ相互的ニ行フコトトシテ  
話ヲ纏メテハ如何ナリヤト述ヘタリ依テ本官ハ右ニテハ矢  
張從來ノ交渉ノ結果ヲ否認スルノ意味ニハ変リナク主義上  
到底贊同スルコト能ハス貴下ハ武漢政府ノ消滅首脳者ノ逃  
亡ヲ以テ陳謝ノ責任ヲ回避セントセラルモ右ハ頗ル乱暴  
ナル議論ニテ御話ニナラス国民政府カ對外的ニハ武漢政府  
ノ義務ヲ繼承スヘキハ極メテ明瞭ナル事理ナリ本件ニ関シ  
貴国政府ノ責任者タル貴下ヨリ斯ノ如キ不信ナル議論ヲ聞  
クハ本官ノ最初ヨリ全ク予想セサリン処ニテ誠ニ心外ナリ  
若シ本会見ノ模様ヲ其儘東京ニ報告セハ政府ノ感触ヲ刺戟  
シ恐ラク一切ノ交渉打切りヲ訓令シ来ルヘシト極メ付ケタ  
リ

519

昭和3年10月25日 在南京岡本領事より

田中外務大臣宛(電報)

矢田在上海總領事よりの漢口事件解決に関する往復公文案

別電 十月二十六日付在南京岡本領事より田中外務

右公文案

大臣宛第五九七号

第五九六号

矢田總領事ヨリ

二十五日午後三時ヨリ王ト会見漢口事件ニ関スル往復公文

案別電第五九七号ノ通決定セリ詳細後電スヘキモ右不取敢

尚本官一行二十六日当地出発一先ツ帰任ノ筈

(別電)

南京 10月26日後発  
本省 10月27日前着

依テ本……ハ日中調査委員会ヲ設立シ其ノ委員ハ双方ヨリ選定シ各日本人ノ受ケタル身体財産上一切ノ損失ヲ算

第五九七号  
伊国民政府ノ照会案  
民国十六年四月三日漢口ニ於テ発生セル事件ニ関シ茲ニ  
本部長ハ国民政府ノ名義ヲ以テ貴……ニ対シ左ノ通り声  
明ス

本件ハ調査ノ結果共産党ノ戰闘ニ依リ發生セルモノナル  
コトヲ實証セルカ国民政府ハ日支間ノ友好關係ニ鑑ミ本  
件ヲ以テ頗ル遺憾トス就テハ貴國領事館貞海軍軍人及在  
留民ノ生命財産ニ受ケタル損失ハ國際公法ニ準拠シ合理  
且必要ナル範囲内ノモノハ之ヲ賠償スルノ用意アリ尚中  
日調査委員会ヲ組織シ日本人民ノ受ケタル損失ヲ實地調  
査シ賠償ノ確数ヲ審査決定シ以テ本件ヲ円満解決セラレ  
ムコトヲ希望ス

(乙)右ニ對スル日本政府ノ回答案(訳文)

:月:日付貴照会ヲ以テ昭和二年四月三日漢口ニ於テ発  
生セル事件ハ共産党ノ(以下前記照会全文引用)ノ旨御  
申越ノ趣了承セリ

然ルニ王ハ双方ニ死傷アリテ而モ賠償ハ片務的トスルハ理  
屈ニ合ハサルニ非スヤト答ヘタルヲ以テ本官ハ右ハ自衛上  
執レル行為ノ結果ナレハ責任ハ負フヘキ筋合ニ非スト反駁  
セル処王ハ暫ク無言ノ後然ラハ支那側ノ死傷ニ対シ賠償金  
ノ要求ヲ撤回シ其ノ代リニ見舞金ヲ申受クルコトトシテハ  
如何ト問ヘルニ付之亦直ニ峻拒セルモ尚依然トシテ怨言ヲ  
繰返シテ止マス種々議論ノ末漸ク諦メタルモノノ如ク改メ  
テ前記我方ノ提出ノ案ニ付本件カ武漢政府ノ責任タルコト  
ヲ明記シテ国民政府ノ面目ヲ立テ且全文ヲヨリ以上ニ簡単  
ニシ陳謝ノ点モ文意及用語ヲズット緩和シ吳ルルニ於テハ  
考慮スルモ可ナリト折レタルニ付本官諒トシ午後繼續論議  
スルコトトシ一応辞去セリ

同日午後ノ会見ニ於テ本官ハ右ニ依リ作成セル案文ヲ王ニ  
示シ本官ハ最後の妥協案ニシテ自分ハ唯貴下諾否ノ返事ヲ  
聞クノミニテ之以上絶対ニ讓歩ノ余地無シト強ク主張シタ  
ルニ王ハ之ニテハ死者ニ対シ申証ナシセメテ支那側ノ死傷  
者ニ對シ一言ノ希望ナリトモ右案文中ニ述フルヲ許シ吳レ  
等種々愚痴ヲ零シ容易ニ納得セサリシモ大シテ理屈モ述ヘ  
ス兎ニ角次回ニ持越スコトトナレリ

定シ以テ補償ニ供ヘントスル提議ニ対シテハ深ク同情ヲ表ス

本……ハ国民政府ニ於テ前記御来示ノ責任ヲ最短期間内ニ於テ履行セラルニ於テハ漢口事件ニ依リ発生セル各種問題ハ根本的解決ヲ遂クルモノト認定ス

右照会ス

520 昭和3年10月27日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

王正廷、漢口事件往復公文案中に中國人民の  
撫恤に關し字句挿入方希望について

上 海 10月27日後發  
本 省 10月27日後着

\*第七六七号

南京發閣下宛往電第五九文書別電  
第五九六号ニ閔シ

漢口事件ニ閔スル二十二日午後ノ會見ニ於テ得タル印象ニ依レハ王ニ對シ結局我方ノ案ヲ押付ケ得ラルモノナルヤニ認メラレタルニ付二十四日特ニ周龍光ヲ領事館ニ招致シ説得ニ努メ置キ更ニ翌二十五日午後ノ王トノ會見ニ於テ前

電所述ノ理由ヲ反覆説明シ我方主張ノ貫徹ヲ試ミタリ然ルニ王ハ依然トシテ国民政府ハ共産党以上ニ民意ヲ尊重シ死傷者ニ対シ責任ヲ取ル次第ナルニ付貴方ニ於テ車夫ノ死傷ハ之ヲ認メラレタル以上右案文ノ末段ハ賠償ノ確數ヲ審議決定スルコト致シタク「中國人民ノ傷害ニ関シテハ貴国政府ニ於テ相當ノ撫恤ヲ与ヘラレ」トノ希望的字句ノ挿入ヲ承認セラレタン

右ハ車夫ノ遺族救濟上將又人道上ヨリ言フモ無理カラヌ注文ニアラスヤト懇願的ニ主張ヲ為シテ讓ラサリシニ付本官ハ負傷セル車夫ハ一名ニテ而モ單ナル負傷ナレハ殊更之ヲ取上ケテ照会文中ニ記入スル程ノコトナカルヘシ况シヤ陳部長スラスル要求ヲ為シタル事實ナント応酬セルニ王ハ夫ハ日本側ノ主張ニシテ支那側報告ニハ刺殺サレタル被害者ノ氏名モ死体ノアリタル場所モ判明シ殊ニ其ノ被害ニ依リ群集ノ憤激ヲ誘致シ本件ヲ惹起セルコトナリ居リ要スルニ発端ノ見方ニ根本的相違アル次第ニ付右一項ノ削除ハ之ヲ暫ク保留シタル儘一応案文ヲ決定シ置キ当方ニテハ至急漢口交渉署ニ命シ記録ヲ取寄せ取調フルコトトスヘシト述ヘタリ依テ本官モ一応右ニ承認ヲ与ヘ右保留ノ一句ハ削除

ノ儘南京発往電第五九文書別電  
第五九七号ノ通案文電報シ置キタル次第ナリ

尚同電訳文中「遺憾」ノ文字ハ支那文原案ニテハ「惋惜」トナリ居レリ為念

521 昭和3年11月9日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

中国側に南京事件解決修正案交付について

上 海 11月9日後發  
本 省 11月9日後着

第八〇八号

八日午後本官王正廷トノ會見ニ於テ條約問題ニ引続キ御訓令ニ基キ南京事件ノ交渉ニ入ル所存ナリシモ遂ニ時間ノ余裕ナカリシニ付英米案ト我方原案トノ主ナル差異及今次修

522 昭和3年11月19日 在上海矢田總領事宛（電報）

英國の例にならい芳沢公使の代理として南京  
事件解決案に署名せられた旨訓令

本 省 11月19日前11時40分發

特第一六号

貴電第八四六号ニ閔シ

英國ノ例ニ倣ヒ貴官ニ於テ公使ノ代理トシテ署名セラレタシ